

平成30年度 前学期 学長と学生の懇談会 実施報告

このことについて、以下のとおり実施いたしましたので報告します。

1. 目的

大学は、学生らの学びと成長のよりよい場として、社会の変化に柔軟に対応しつつ前進しなくてはならない。その大学の変化は、教職員だけではなく学生や地域の人々との対話交流の中で生まれる必要性に基づくものであることが望ましい。その一環として、学生と教職員がともに大学を育てていくパートナーであるということを互いに確認し意識を高め合うために、本学の新たな取り組みや学生生活全般について、学長をはじめ大学執行部教職員と学生が直接対話し、学生の声が大学運営に反映される機会を持つことを目的とする。

2. 参加者

①学 生：各学部2～4年次生及び研究科院生 51名（詳細は下表のとおり）

	男性	女性	計
人文社会科学部	8名	4名	12名
教育学部	6名	8名	14名
理学部	7名	6名	13名
工学部（内理工学研究科）	3名 (1名)	2名	5名
農学部	2名	5名	7名
計	26名	25名	51名

②教職員：三村信男学長、太田寛行理事・副学長（教育統括）、栗原和美全学教育機構長、西川陽子副機構長、向後光典学務部長
（陪席） 佐川明美教員、岡崎豊文大学戦略・IR室長補佐、数馬康之係員、武田和志学生支援課長、塚田秀之厚生企画係長、土橋俊朗主任、皆川洋子主任、石川雅也主任

3. 実施日時・場所

①実施日：平成30年7月11日（水）

- ・開会挨拶・趣旨説明 14：30～14：35
- ・懇談会 14：35～16：40
（途中10分休憩）
- ・閉会挨拶 16：40～16：45
- ・アンケート記入 16：45～17：00（随時解散）

②場所：共通教育棟2号館4階 41番教室

4. 主な話題

- ・平成28年度、平成29年度学士課程卒業時アンケート調査結果をもとに、学生生活にお

ける近年の動向として気になるところを取り上げた。

5. 実施方法

懇談会中は、クリッカーを用いて学生にアンケートを行い、その結果を基に、学長が各参加者へ理由や詳細について尋ね、学生と対話するかたちで進めた。（クリッカーアンケート結果：別紙1 参照）

6. 実施後アンケートの実施

大学運営、および今後の企画実施の参考とするため、参加者に対し、懇談会終了後に「実施後アンケート」を実施した。（実施後アンケート結果：別紙2 参照）

7. 今後の予定

①学内への報告

実施した内容については全学教育機構学生支援部門会議等の学内諸会議で報告するほか、学内掲示板等を活用し、広く学内に報告する。

②学生からの意見・要望等への対応

全学教育機構において、学長と学生の懇談会にて聴取した学生からの意見や「実施後アンケート」の内容を踏まえて改善を検討する。

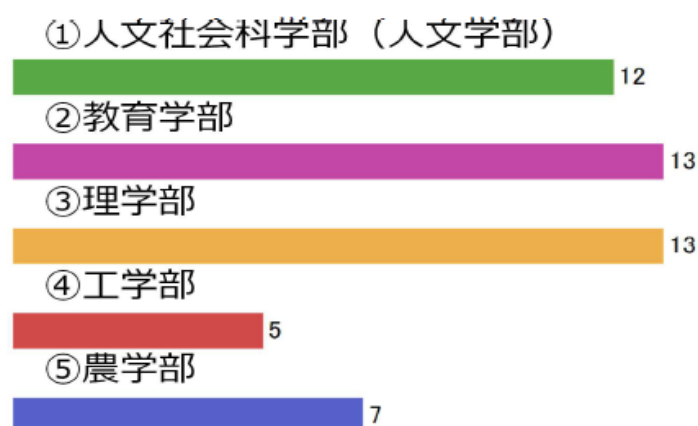
また、学生からの意見・要望等のうち、全学教育機構以外が所掌する事項については、関係各所への情報提供、および改善の可否等の照会を行う。検討の結果、改善されたものなどについては、学内に掲示し、学生へのフィードバックを行う。

8. 学長と学生の懇談会の様子

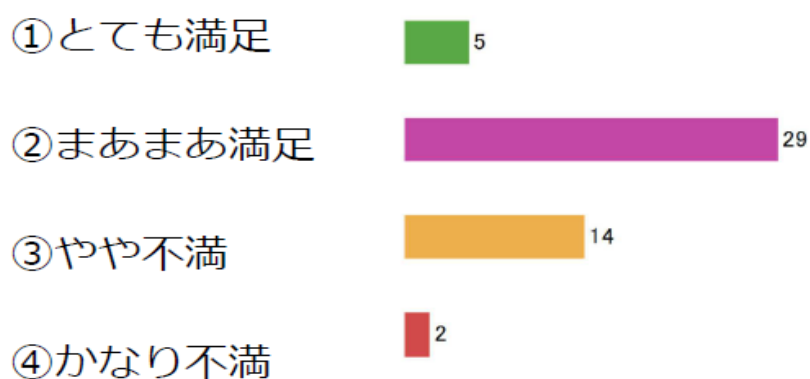
	
写真：懇談会の様子（1）	写真：懇談会の様子（2）
	
写真：懇談会の様子（3）	写真：懇談会の様子（4）

学長と学生の懇談会 クリッカーアンケート結果 および学生からの意見

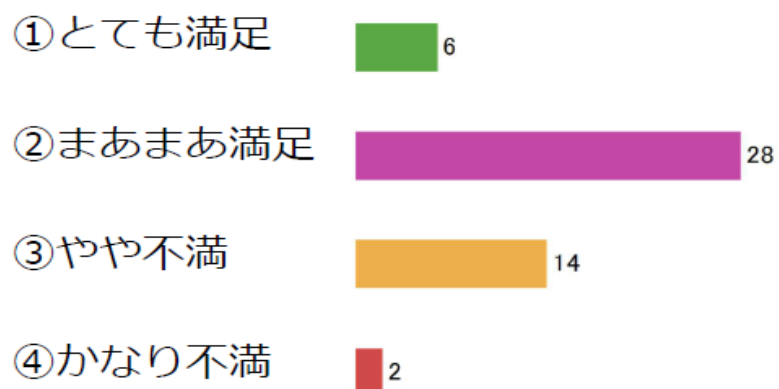
所属学部を教えてください。



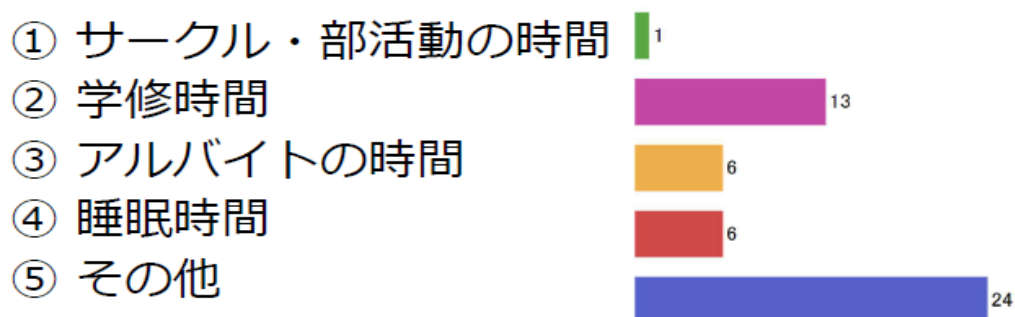
茨大での大学生活全般における満足度は？



特に授業や研究など学修面における満足度は？



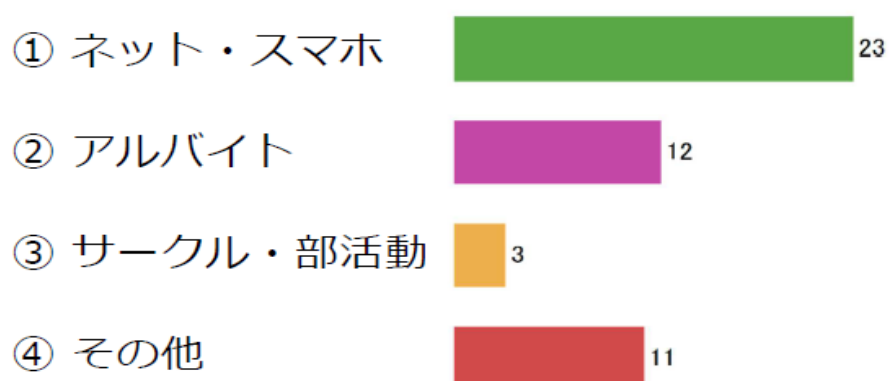
昨年度よりクォーター制になり授業時間設定が大きく変わりましたが、これにより自身の生活時間で何が最も変化しましたか。



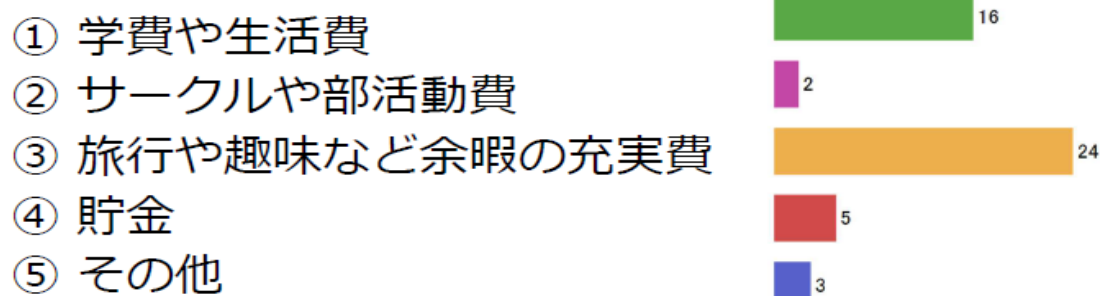
自身の授業外学修時間について、以前よりも減少したと思いますか？



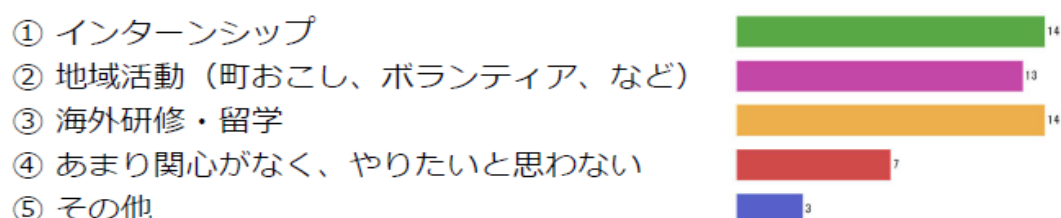
授業外学修時間の減少について、最も影響しているものは何だと思いますか？



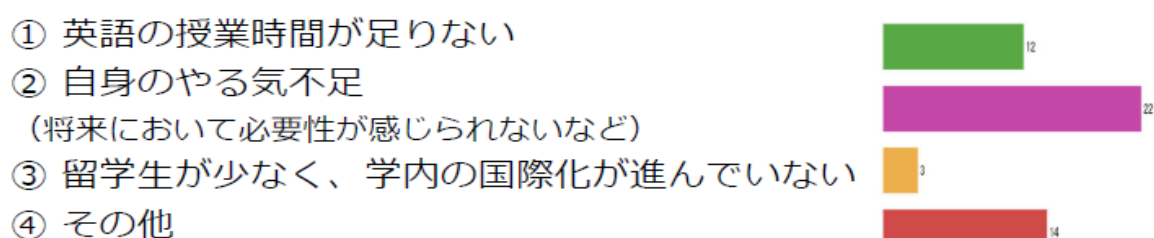
深夜アルバイトなど時給が高く長時間のものが増加傾向にあるが、アルバイト収入の主な使い道は？



学外活動で興味があり、やりたいもしくは既にやったものは？



大学では英語カリキュラムを強化しているが、英語力に関して自信がつかない主な要因は何か？



大学生活で「不便に思っていること」もしくは「改善すればもっと良くなると思うこと」はありますか？



2018 前期 「学長と学生の懇談会」における学生意見

テーマ① 茨大での大学生生活全般における満足度

- ・理学部棟の自習室が18:00までしか使用できず不便。図書館、ラーニングコモンズかなり満杯。授業時間外の学習場所が欲しい。(理学部)
- ・プリンターの有料化について、HPを見るとランニングコストが1枚あたり4円だが生協では10円となっており、せめて半額にならないか。懇談会にて「50枚から500枚で何枚ぐらい支援があるとよいか」との問いに、100枚ぐらいあればよいという学生が多かった。(全学生)
- ・118号側グラウンドのグラウンドネットの下が筒抜けで、野球部活動中にボールが下から出てしまい危ない。また、野球部グラウンドのサードベース付近に大きな石があり危ない。道具さえあれば自分たちで整備するので、グラウンドの整備道具を整えて欲しい。(教育学部)
- ・トレーニングルームがサークル棟からレスリング棟へ移ることは嬉しい。なるべく早く充実した施設で部活動がしたい。(教育学部)

テーマ② 授業や研究など学修面における満足度

- ・授業面は概ね満足しているが、1つだけ不満をいえば自分の所属する学際理学コースは4つの専攻に分かれており、一緒に授業するのは1年生時の1科目しかなく、コース全員が集まる環境が少なく寂しい。(理学部)
- ・共通教育棟1号館で外国人の方とコミュニケーションがとれる部屋があることを最近知った。認知度が低いと思うのでもっと周知を図ったほうがよい。授業以外の面で、海外の方と交流を深める場所がほしい。(理学部)
- ・大学で学んでいる英語は高校の文法を学ぶ授業の延長線と感じていたが、「Studying Abroad」は受講してよかった。また、AIMSプログラムは個人的に大きな実りがあった。英語で会話してディスカッションするといった実際に使えるような授業をしてもらいたい。(農学部)
- ・社会的に著名な非常勤講師(アスレチックトレーナー等)の方の講義も受けられ、授業にはとても満足している。(教育学部)
- ・施設面では、専攻会室のような授業外での学生の居場所があってよい。(教育学部)
- ・授業内容では概ね満足しているが、期末テスト時の学生の不正行為に対する対応がゆるい。テスト中、先生が一人教室の前に立っているか、または教室の外に出て行ってしまふことがあり、不正行為が容易に出来る状況だった。スマホを使っていた学生に対し、十分な対応をしていない。(教育学部)
- ・日立キャンパスで研究を行っているが、装置の関係で東海村に行かなくてはならず不便。水戸キャンパスにはその装置があるが、日立キャンパスにもあるとよい。(理工学研究科)
- ・中国語に興味があり、現在2年生だが2年生のとれる中国語の授業はリーディングに偏っていて1年生がやるような文法や簡単な文章・発音を学ぶ授業が少ないと思うがどうか。(人文社会科学部)

テーマ③ iOP及び自主的学外学修について

- ・iOPフォーター制について、留学・ボランティア・資格の勉強等各自でやることとしているが、教育実習は2～3週間なので1か月空くが何もしない人は何もしない。(教育学部)
- ・先輩からiOPに留学ではないが海外に行き、その経験が非常に役に立ったとの話を聞いた。(教育学部)
- ・iOPでは教員採用試験に向けて勉強をし、自分にとっては有意義だった。iOPをどう使うかを自主的に考えて行ったことは大きな経験となった。(教育学部)

テーマ④ 授業中はじめ学修におけるスマートフォンの使用について

- ・学長からの「調べものをする時、スマホを使う人」の質問に対し、挙手者多数。
- ・レポートを書く際、使用するのはパソコンだが、普段の調べものはスマホで行っている。授業の資料が重くてパソコンを持って来られない時、スマホを持参する。自習室でスマホの持ち込みが禁止の所が多い（図書館のサイレントルーム等）。（人文社会科学部）
- ・自分は授業中、スマホを使う。レナンディ等をスマホで見ることを推奨している教員もいる。資料を印刷するとなると、費用がかかるのでスマホを使っている。スマホだと同時に色々なページが開けるので便利。（理学部）
- ・現在1年生で分からないことが多く、先生が授業で言ったことをスマホならすぐ調べることができ、家に帰ってから調べるタイム・ラグもない。スマホの利用は規制されるものではないと思う。（人文社会科学部）
- ・自分が将来教諭となった時、生徒が下を向いて何を見ているかわからないような態度をとられたら失礼だと思う。スマートフォンを使うのであれば教授から指示があった時にすべき。（教育学部）

テーマ⑤ 実践的英語能力習得について

- ・将来英語が大切になるのは分かるが、自分の好きな分野に時間を割いてしまう。（教育学部）
- ・自分は、国語を専門に学んでいる。母国語の日本語をきちんと話せないのに外国語を話すというのはどうか。まず、母国語を大事にし、日本語を学んでいくことが大切なのではないか。（教育学部）
- ・英語を話すということはコミュニケーションをとることで、大学の授業は文法等が間違っても自分の意見を言える。（教育学部）
- ・自分は英語が好きで留学する予定であるが、留学しないとだめとか英語が話せないとだめとか、英語が強制されている感じがある。もっと柔軟に考えたら、英語も楽しくなるのではないか。（教育学部）
- ・1・2年生で受けた授業は主に文法で、3年生では外書講読となり、コミュニケーションをとる学修が少ない。1ヶ月間海外に行って同年代の多国籍の人達と話した経験から、英語が話せるようになるには、コミュニケーションをとる自分の気持ちの問題、人と話せるという気持ちの問題であり、実際に海外の人と話す機会が大切だと思った。海外の友達を作る機会ができればいいのかなと思う。興味がある人は自分で調べたりできるが、学生が行動を起こさせるための「情報提供」が大学からあったらいいと思う。（理学部）

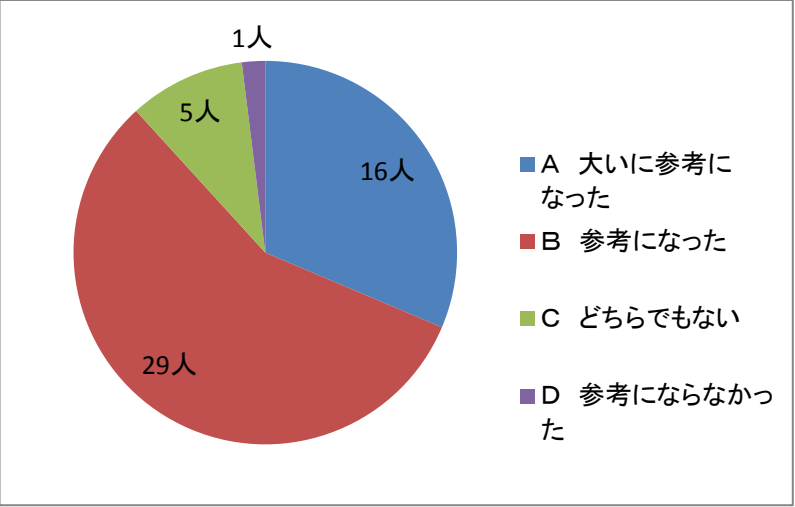
テーマ⑥ 大学生活で不便に思っていること・改善してほしい点

- ・教員が時間にルーズ。あたり前のように授業に遅れてくる、また成績を出すのが遅い教授もいる。奨学金をもらっているのに成績を早く出してもらえないと困る。（同意の挙手者多数）そういう態度をしっかりとしてほしい。（教育学部）
- ・教員のハラスメントは、明確なものやグレーなものも含めて多数あると思う。ある部活動の顧問の教授が学生とコミュニケーションがとれていない。学生が意見を言いやすい環境を教員側からも考えてもらいたい。（教育学部）
- ・水戸キャンパスの全面禁煙化を早くしてほしい。（理学部K棟のあたりで煙草のにおいがした。）（理学部）
- ・北門が平日は24：00に閉められ、土日は終日閉まっているので不便。閉めている意味はあるのか？（人文学部）
- ・自転車について、通行できない所を通行している人がいる。夜は通行者が少ないので、自転車の通行規制を解除してもよいのでは。
- ・生協裏の駐輪場がなくなるのはいかがなものか？この件について、学生の意見も聞いて欲しかった。無くなると、理学部付近の駐輪場に人文社会科学部・教育学部の学生も自転車を停めることが予想されるので、もっと駐輪場を増やしてほしい。（理学部）

平成30年度前学期 学長と学生の懇談会
実施後アンケート 集計結果

アンケート提出者：51名 / 懇談会参加者：51名 （回収率：100%）

1. 懇談会の内容は参考になりましたか？



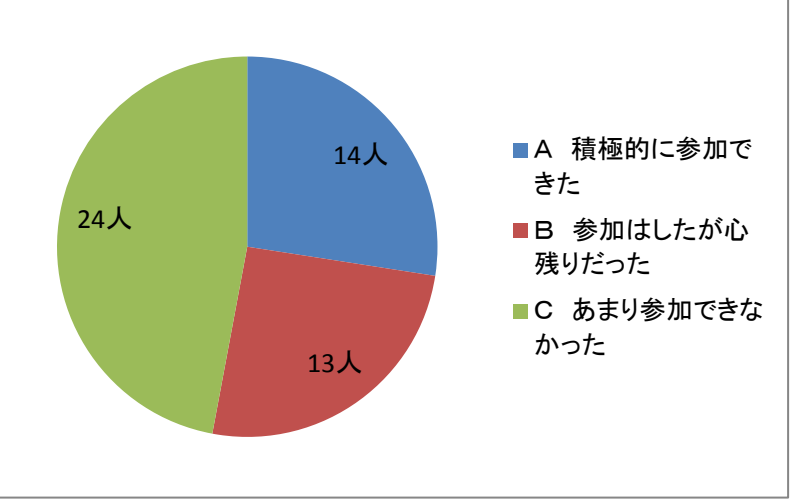
参考になった主な内容

- ・大学生活で不満や疑問に思う事について、学長から大学側としての意見を聞け参考になった。（14名）
- ・自分が知らなかったこと（大学の取組等）や考えてもみなかったことの話が聞け、良かった。
- ・駐輪場、クォーター制の意味、トレ室の整備に関する経緯、生協食堂、禁煙、英語教育、ハラスメント等）
- ・学長に疑問に直接答えていただいた。
- ・知らなかったデータや学生が思うことに対して、運営する立場からの対処状況に加え、運営上の困難さも知れた。
- ・他学部・学年の意見が聞けて参考になった。（7名） 改めて学校生活を振り返れた。
- ・普段気がつかなかった、大学の問題点が多く挙がって、とても参考になった。
- ・他の人の意見に「確かに。」と思うものもあり、学生生活に対して問題意識が持てた。
- ・本気で学校を変えようと考えている人が多く、考えが深いと感じた。中でも「英語だけが世界とのコミュニケーションツールか」は、心に刺さった。

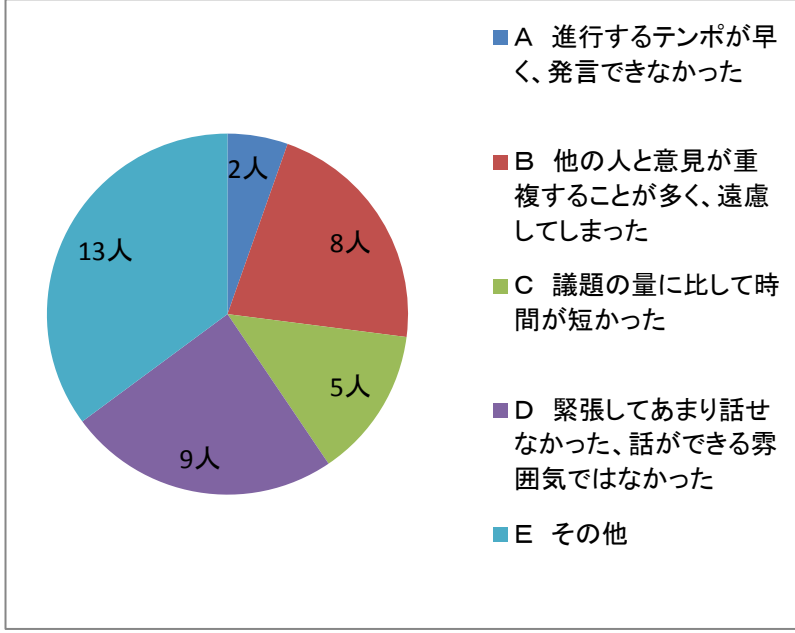
参考にならなかったと感じた理由

- ・大学の問題解決のための話し合いというより、どうでもいい話を長く話す人が多かった。

2. 懇談会では、積極的に意見を出せましたか？



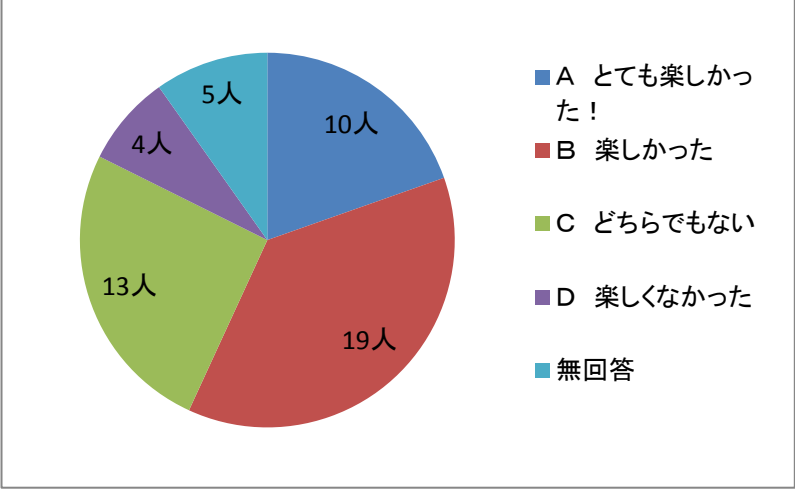
3. 参加はしたが心残りだった、もしくはあまり参加できなかった理由を教えてください。



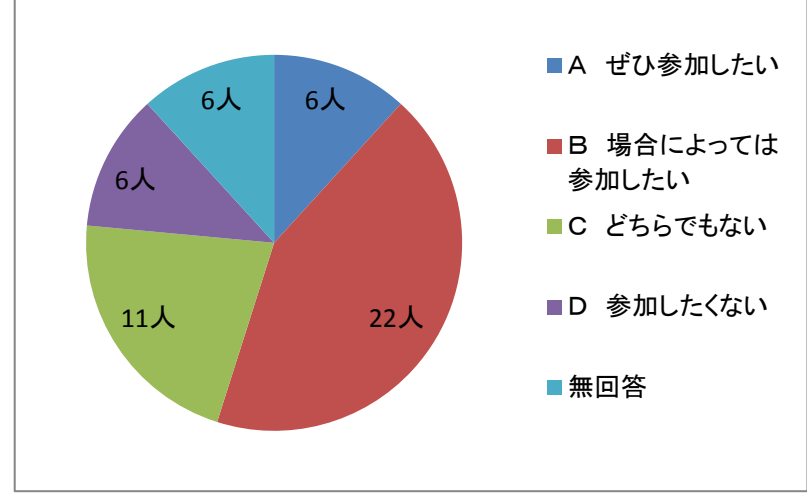
「E」の具体的内容

- ・議題についての知識が自分には無かった。
- ・議題に経験していない内容があって、考えたり意見が出せなかった。（3名）
- ・自分に関連のあること、関心のあることがなかった。
- ・特別発言するほどの意見がなかった。
- ・発言する人が固定化されていて、あまり発言できる気がなかった。
- ・どこで発言すれば良いか分からなかった。次の議題が分かった方が良い。
- ・阿見キャンパスにいるため、少人数の阿見のことを言うべきだとは思わなかった。
- ・今日は、参考に話を聞きたかったから

4. ズバリ！ 学長とお話しするのは楽しかったですか？

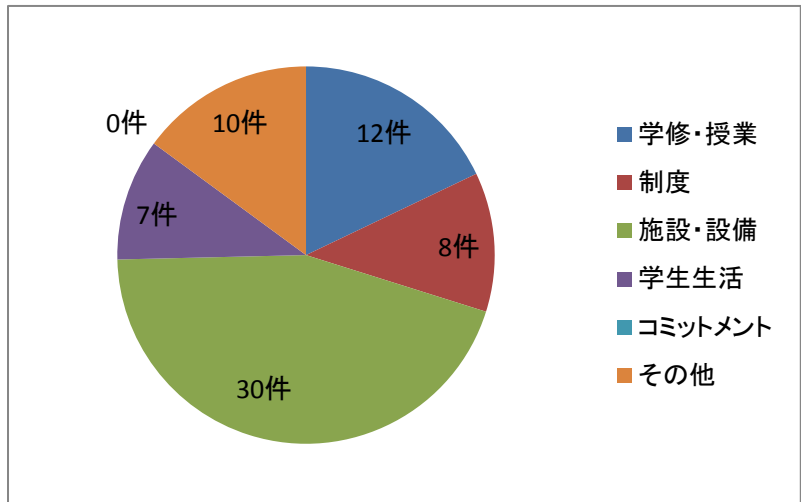


6. 今後、同様の懇談会が開催されたら、参加したいと思いますか？



5、7、8は自由記述の設問だが、記載内容により項目立てをして集計を行い、各項目の意見の要旨を記載する。

5. 今回の懇談会では伝えきれなかった大学へのご意見・ご要望をお聞かせください。



「学修・授業」に関すること

- ・農学部では、授業、研究内容については満足しています。各教員の専門分野から（複数の別の視点を通して）学ぶことで、興味ある点につながる瞬間が多くあり、また教員との距離が近く、とても居心地が良い。
- ・教育学部の2年次で受けた講義で、出席確認をせず最後のテストだけで成績を評価する教員がいた。（出席3回の学生がAをとり、出席15回の学生がC評価だった。）しっかり授業に参加している人が報われるよう改善してほしい。
- ・他学部でもとりたい授業がある学生もいると思うので情報を開示し、学部の壁をこえて授業をとりやすくしてほしい。
- ・夏休み中での授業が多すぎて留学やインターンに行けないという声を聞くことがある。
- ・CAP制について、各々の授業に対し予習復習のための制度であると伺っているが、中間・期末テストで単位が縛られている現状で、上限を決めた意味を感じえない。今回話が上がったカンニングについてもCAP制が原因であるように思える。
- ・基盤教育科目のクォーターの授業は自分の気になる様々なことを学べるのでとても良い。教育学部の選修の授業をクォーターの授業にするのは深く学べている気がしない。
- ・教育学部音楽選修で管打楽器の教授を非常勤から常勤に戻してほしい。練習室のピアノの調整をもっと高頻度でやってほしい。
- ・隔年開講の専門科目の授業が毎年開かれるようになったことは、留学や単位を落とした人にとってとても良かったと思う。
- ・単位上限をもう少しゆるくして欲しい。自分で授業をとって勉強するのは自由だし、大学生の権利だと思う。
- ・理学部数学科の授業について、他大学では扱っていて本学では扱っていない内容が多々あるので、もう少し多種多様な内容を扱って欲しい。
- ・英語について、コミュニケーションの自信をつけるのに最適なのは伝えたと感じることと、理解できたと感じることだと思う。今は留学等しなくてもインターネットで実践的なコミュニケーションが行えるので、Skype等で海外の提携校との通話を行う等窓を広げていく必要があると思う。
- ・茨城学について私たちの年次では一般市民の方が科学的根拠のない、かつ政治的意図を含んだ発言を繰り返すだけの回や、学生が発言する度に社会人の方が言い訳をするだけの回があった。このままでは本来の目的とは逆の結果を招くだけだと思う。

「制度」に関すること

- ・チューターの募集に際し、留学生によくヒアリングしどういった人物に付けてもらいたいかを調査すべき。（留学生にコミュニケーションを拒まれた友人もいるので）
- ・農学部ではクォーター制により留学にあてたりするような時間がとれるようになっていない。
- ・養教の学生は教育学部の他の学科と別枠のことが多い。
- ・教務情報ポータルで履修登録して時間割が見れるのは良いが、教室も見られるようになると良い。
- ・iOPクォーターがいきなりやってきても実際何をすればよいか迷う学生も多い。プレiOPのようなものを2年のGWなどの連休を利用してキャンペーン化するのはどうか。欠席に対する救済策を含め対応していただきたい。
- ・2つのページを行き来するのが手間だとしても、学生としてはDream CampusよりRENANDIとLive Campusの方が良かった。
- ・Dream Campusになってから使いやすくなったが、休講情報が休講であるのに更新されていないことが多いので改善してほしい。
- ・農学部への編入生が、必修のため阿見から水戸へ通っているが金銭的・時間にも負担になっていると思う。

「設備」に関すること

- ・教育C棟側の金工室に水もれがあり、作品保管や製作に支障があるため改修をお願いしたい。□
- ・生協から図書館への移動が不便に感じるので、芝生の中に通路を作してほしい。（2名）
- ・生協前に天気に関わらず傘立てを設置してほしい。
- ・学内のWi-Fiがつながりにくい。（2名）
- ・理学部棟の部屋でエアコンをつけても、ある程度時間がたつと勝手に電源が切れてしまうのですが、そのような設定がされているのですか？
- ・自転車及び自動二輪車の駐輪場が少ないので増床して欲しい（不審者対策としても特に理学部側（夜中まで研究があった時、歩いていくのが怖い））。駐輪場に屋根を付けてほしい。自動二輪車の駐輪場に自転車が並んでおり、駐輪できない。駐輪場が拡張できないなら、自転車をしっかり取り締まってほしい。（6名） テニスコート利用者による自転車の放置が目立つ。
- ・水戸キャンパスのサークル棟が燃える前のように使用できるのはいつになるのか。

・図書館内で昼食を食べられるスペースを増やしてほしい。図書館を24時間開放してほしい。
・ロッカーの整備を進めてほしい。
・グラウンド整備道具としては、散水用具と整備用金網は必須でお願いしたい。
・日立キャンパスも環境の整備(研究など)をお願いします。
・茨苑会館集会室の冷房設備を整えてほしい。(音響機器を使用する際、扉も窓も閉めきっているため暑い。音量も小さめに、土日は17時までの制限がある。かなりの制限をかけられている中で、活動は積極的に体調管理はしっかりやれというのは無理がある。)
・ウォーターサーバーを設置してほしい。
・図書館1階の共同学習室で遊んでいる人達のせいで、話し合いながら勉強しようとする時、グループ学習室が空いていないとやる場所がない。
・阿見キャンパスの施設をもう少し新しくきれいにしてほしい。(2名)特に研究棟のトイレが古く、汚い。
・農学部で1人にかかる研究費が少ない(学部)なので機械が不調になっても修理ができないことがある。情報室のプロジェクターが壊れたまま。(2名)
・人文学棟にも自習、昼食スペースが欲しい。利用時間を拡張してほしい。設備が他と比べて足りない。(PCの起動が遅い。)(2名)
・生協の拡大については本当に理解できない。学生の投票を行ってからやるべきである。

「学生生活」に関すること

・水戸キャンパスと阿見キャンパスの物理的な距離が、学生の部活動の継続を難しくする現状があると感じる。
・部活が1限前のため、その時ケガをしてしまった場合に冷やすための氷を使えるようサークル棟・体育館等の鍵を貸してもらいたい。
・オリエンテーリング部のキャンパス内での活動制限を緩和してほしい。
・プリントの紙が有料化したことは確かに問題であると感じた(2名)ので、100枚程度、無料で印刷させて欲しい。
・学外活動を行いたい、そのためにはアルバイトが必要。その支援を充実してほしい。
・教育B棟前で、踊っているサークルがある。23時ごろまで音楽や声など非常にうるさい。

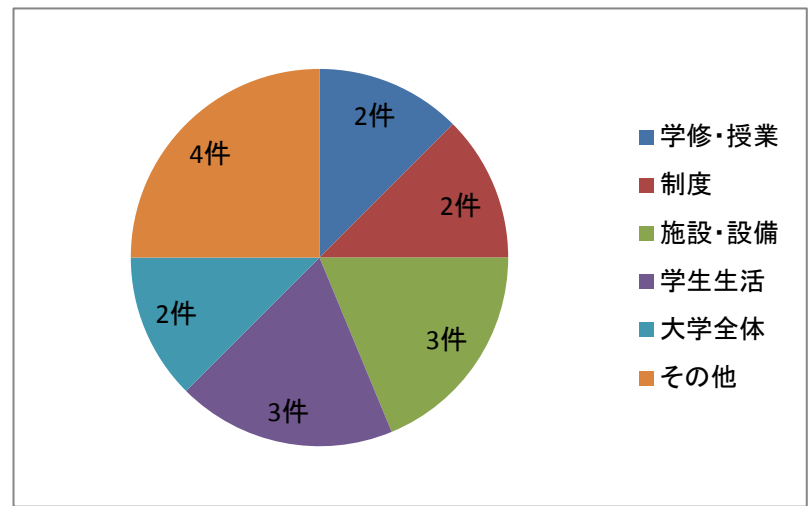
「コミットメント」に関すること

・

その他の要望

・教室の場所を人文系の学務の方に他学部である事情を話してきいたところ、とても面倒そうに雑な対応をされた。
・大学前の横断歩道が混雑時は危ない。
・普段から、大学への要望などを伝える手段があれば良いと思う。
・学生証に生年月日を記載してほしい。大学関係の手続きすら学生証に生年月日が記載されていないため本人確認として不適とされた。
・人文の学務の学生への態度がよくない。(例：学生が入室しても誰もなかなか反応しない等)
・メールが多く、就活のメールが埋もれてしまう。(留学等関係ないものが多い)
・学長・運営の方々が学生の意見を反映させようという姿勢が見えなかった。
・学務が出す掲示は日にちまで記入して掲示してほしい。いつ貼ったのか不明のため、学生側の不注意なのか掲示が悪いせいなのか分からない。
・阿見キャンパスや日立キャンパスでも懇談会を開くべき。水戸で集めるのは阿見や日立の負担が大きい。問題解決もほとんど実行されるのは、水戸キャンパスばかりだと感じる。
・ハラスメントは度合いによっては、犯罪になるのできちんと対応してほしい。

7. 今後、このような学生懇談会を行う際に、議題にして欲しいテーマはありますか？

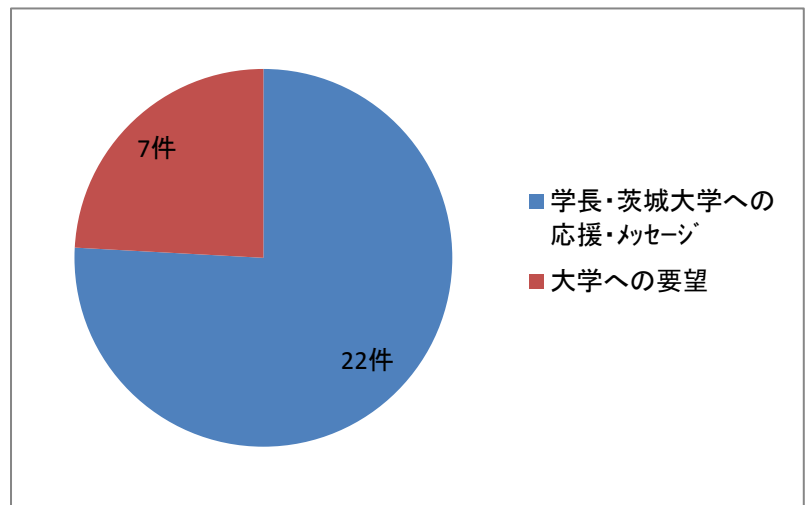


「学修・授業」に関すること

・学問・専門性を学ぶ場としての大学だけでなく、社会に出る力を高める大学として、多くの社会人の経験などを知り考える機会があればと思う。(インターンとしてではなく)
・どのような授業を実施してほしいかについてなど

「制度」に関すること
・授業料免除について
・授業の成績評価について
「施設・設備」に関すること
・喫煙所を完全になくすこと。自習室の充実化！
・サークル棟や茨苑会館等課外活動施設についての不平不満。
・駐輪場について
「学生生活」に関すること
・新歓祭や文化祭などの行事に対しての意見
・部活動、サークル活動
・学内で行われているイベントや授業に関して等、情報共有のしかたについて（周知が足りていないのでは…？）
「大学全体」に関すること
・茨大の今後について
・教授への要望、学務課などへの要望
その他
・今回は学生と大学側での懇談会だったので、他に学生間で他学部と関わったり意見交換ができるとよい。
・設備や教授についての意見が多く出たように感じたので、そのテーマに関する時間を長く取るべきだと考えます。
・テーマを絞らずに話す時間を増やしても良いと思う。
・各キャンパスでの交流の場を設けて頂きたいと思います。

8. 学長へのメッセージをお願いします！



学長・茨城大学への応援・メッセージ（原文ママ）
・本日はなかなか聞けない大学側の意見を聞けて参考になりました。学生の為を思ってくださっていることが大変伝わりました。
・スマホを使い始めて有用性を理解されているというお話で、そのように学長から歩みよられている姿勢にはうれしく思いました。
・意見が言いにくい人も多いと思われます。名簿などを見て適当に様々な人を指してしまった方が活発な議論になると感じました。
・学長が学生のためになることを考え、様々な行動をおこしていると知ることができて良かったです。
・フレンドリーですてきな方だと思いました！もっと意見がしやすい雰囲気だったらよかったと思いました。
・私は茨城で教員になりたくて茨大の教育学部に入ったのですが、授業の内容（特に模擬授業ができる授業など）が充実していて、また、教育インターンというものも始まり入学して本当によかったなと感じています。
・初めて知ることも多くあり、お話を聞けて良かったです。教育学部の勉強時間の減少について、明確ではありませんが1つの考えとして、教育は”勉強する”としていわゆる考えられる行為以外に考えること、学校訪問等もあるかなと思い、一概に悪いとは言わなくても良いのかなと思いました。授業は7時間は、教育学部生は普通すぎるのだと思います！クォーター制になってから改善されてればと思います！
・初めて学長と意見交換ができる場に参加してとても充実した時間でした。ありがとうございました。高校の時にオープンキャンパスに来て、入りたい！と思った時を思い出しても、あの時オープンキャンパスに来て良かったと思うくらい充実しています。
・学長から親しみやすい雰囲気を感じました。
・フランクに話せてよかった。もっと気軽に参加できるような形でも良いと思います。本日はありがとうございました。
・良い経験になりました。
・普段、意見を述べる場がないので懇談会の場を設けていただきありがとうございました。
・意見をしっかり聞き入れてくれている感があり、あまり堅苦しくないのが好感がもてた。
・批評的な意見ばかりで、気持ちの良いものではなかったと心中お察し致しますが、私たちも普段からこれだけ不満を抱えています。現状をご理解いただいた上で、できる限りの改善がなされることを祈っております。

- ・ありがとうございました。とても良い時間を過ごせました。
- ・この懇談会はとても良い取り組みだと思います。学生のことをすごく考えてくださっているのだと思いました。ありがとうございました！
- ・今日はありがとうございました。とてもフレンドリーで話しやすかったです。参加して良かったです。
- ・丁寧に質問に答えて頂いてありがとうございました。
- ・学食を利用している姿をよく見かけます。そのような時間を利用して、学生の意見を聞いてみてはどうでしょうか。もっと学生との距離が近くなるといいと思います。
- ・途中参加で申し訳ありませんでした。会の中で、色々な意見・不満が出たとは思いますが私は茨城大学が大好きです！黄門まつり市民カーニバルと一緒に踊ってくれる学長も大好きです。
- ・直接お話をしたり聞いたりする機会は、貴重なので参加して良かったです。
- ・短い時間ではありましたが、真摯に学生に向き合って頂き、ありがとうございました。

大学への要望

- ・学生に対してこのように開かれた場を設けて頂いて感謝しております。すぐでなくとも、誰もが知っている大学になると我々学生としても誇りです。
- ・水戸キャンパスの話が中心になってしまうことは当然であると思います。ぜひ、学部ごとの話し合いの場を積極的に考えていただければなど。
- ・この会で出た意見がどれだけ現実になるかがこれからのこの会の発展につながると思うので大変だとは思いますが、ぜひ積極的に実現できることは取り組んでほしいと思います。
- ・今回の会で出たような学生の不満や不安を気軽に相談できる場所があるといいのかなと思いました。（学務はこの間のパワハラの件のクレームをもみ消したので信用出来ません。）
- ・英語教育に力を入れるならば、資格関係の講義に加え、英語で専門知識を学ぶ授業があるとき良いと思う。
- ・今日話し合われた内容について、ぜひ実行できるものは実行してってください！
- ・学長さんはとても良い人だと感じました。忙しいと思いますが、がんばってください。もっと色々なキャンパスで話せる機会がふえることを期待しています。

9. その他、懇談会に関する感想・ご意見等ございましたら、自由にお書きください。

- ・こういった懇談会があることを今回初めて知りました。楽しかったので、今後も行ってほしいと思います。（3名）
- ・今後、茨城大学がより良くなるためにも有意義な会だったと思います。（3名）
- ・私は4年生であったのでクォーター制の授業を取ったことがありません。そういったことを議題に挙げるのだったら、2～3年生メインでやった方がよいと考えました。iOPクォーターなどの言葉も聞いたことがなかったです。
- ・他学部での色々な状況などわかっておもしろかったです。農学部は出遅れてる感があると思いました。
- ・学生が大学側に直接意見を言える機会があるのはとても良いと、今回初めて参加して思いました。
- ・ガムをかんだり、タブレットをいじったり、となりの人とこそこそ話したり集中していない学生がいてとても気になりました。失礼だと思った。（2名）
- ・もう少し人数が少ない方が発言しやすいかなと思いました。
- ・結構学生からの意見を聞き入れないことがあるなという印象を受けました。もう少し同意する素振りぐらい見せてもいいんじゃないでしょうか。
- ・懇談会での意見がどの程度反映されているのか目に見えない。また、教育学部のほうが改善され、人文学部はあまり変化を感じない。すべての学生に対して改善が見られるようにしてほしい。
- ・とても意義のある会だと思うので、もっと存在をオープンにしてほしいなと感じます。行われていること自体、知らない学生もいると思うので。学科、コースごとにやってもいいと思います。
- ・最後に、その日出た意見をまとめたスライドがあればいいかなと。

説明概要

議題名 (説明者)	平成30年度 後学期 学長と学生の懇談会の実施報告について（西川学長特別補佐）	
趣旨・目的	大学は、学生らの学びと成長のよりよい場として、社会の変化に柔軟に対応しつつ前進しなくてはならない。その大学の変化は、教職員だけではなく学生や地域の人々との対話交流の中で生まれる必要性に基づくものであることが望ましい。本企画はその一環として位置づけられ、学生と教職員がともに大学を育てていくパートナーであるということを互いに確認し、意識を高め合うために、本学の新たな取り組みや学生生活全般について、学長をはじめ大学執行部教職員と学生が直接対話し、学生の声が大学運営に直接反映される機会を持つことを目的とする（年度計画67に該当）。	
背景・経緯・ポイントなど	第三期中期目標では組織運営の改善に関する目標を掲げており、この実現のため、中期計画においては、学内コミュニケーションとして大学改革の方向性や学長・大学執行部の意向・方針を教職員や学生等に的確に伝達し、全学的な情報や意識の共有の下で改革の取組等を進めるため、学長・大学執行部と教職員、学生との意見交換会の開催を引き続き実施することが謳われているところである。 本中期計画は、具体的な評価指標として学生との意見交換会の回数を2回以上実施することとしており、平成30年度の第2回目として、平成31年1月16日（水）に、5学部の1年次（学部2年次1名含む）を対象として懇談会を実施した（参加者48名）。 懇談会では、「コミットメントセレモニー」などの新たな取り組みや日ごろの学生生活を話題として取り上げ、事前に用意した質問に対して学生にクリッカーを用いて回答してもらい、その回答結果をもとに学長が学生に質問を投げかけ関連する話題を引き出し懇談してもらう形式で行った。本報告は、懇談会で示された意見や要望等を学内で共有し、今後の改善等に役立てるためのものである。また、全学教育機構所管以外の事項については、関係各所に情報提供を行うとともに、その改善の可否等について照会を行う（学生から出された意見や要望等は別添「平成30年度後学期学長と学生の懇談会実施報告」を参照）。	
委員会・会議等における審議等経過や今後の予定など	平成31年2月14日	教育研究評議会 報告
その他		
担当	学 務 部 学 生 支 援 課	

平成30年度 後学期 学長と学生の懇談会 実施報告

このことについて、以下のとおり実施いたしましたので報告します。

1. 目的

平成30年度に本学に入学した新入生を募り、「コミットメントセレモニー」などの本学の新たな取り組みや日ごろの学生生活について、学長をはじめ大学執行部教職員と学生が直接対話することにより、学生の声が大学運営に直接反映される機会を持つとともに、学生と教職員が大学を共に作り上げていくパートナーであるという意識を互いに高めることを目的とする。

2. 参加者

①学 生：各学部1、2年次生 48名（詳細は下表のとおり）

	男性	女性	計
人文社会科学部	3名	4名	7名
教育学部 (内2年次)	0名	9名 (1名)	9名 (1名)
理学部	5名	2名	7名
工学部	14名	6名	20名
農学部	0名	5名	5名
計	22名	26名	48名

②教職員：三村信男学長、太田寛行理事・副学長（教育統括）、栗原和美全学教育機構長、篠嶋妥副機構長、西川陽子副機構長、向後光典学務部長
(陪席) 中庭陽子監事、武田和志学生支援課長、塚田秀之厚生企画係長、皆川洋子主任

3. 実施日時・場所

①実施日：平成31年1月16日（水）

- ・開会挨拶・趣旨説明 14:30～14:40
- ・懇談会 14:40～16:40
(途中10分休憩)
- ・閉会挨拶 16:40～16:45
- ・アンケート記入 16:45～17:00（随時解散）

②場所：社会連携センター3階 研修室

4. 主な話題

・平成30年度に入学した新入生に、本学の新たな取り組みや日ごろの学生生活について、近年の動向として気になるところを話題に取り上げた。

5. 実施方法

懇談会中は、クリッカーを用いて学生にアンケートを行い、その結果を基に、学長が各参加者へ理由や詳細について尋ね、学生と対話するかたちで進めた。（クリッカーアンケート結果：別紙1 参照）

6. アンケートの実施

参加学生の感想等を聴取し次回以降の学生懇談会の参考とするため、学生参加者に対し、懇談会終了後に「アンケート」を実施した。

7. 今後の予定

①学内への報告

実施した内容については全学教育機構学生支援部門会議等の学内諸会議で報告するほか、学内掲示板等を活用し、広く学内に広報する。

②学生からの意見・要望等への対応

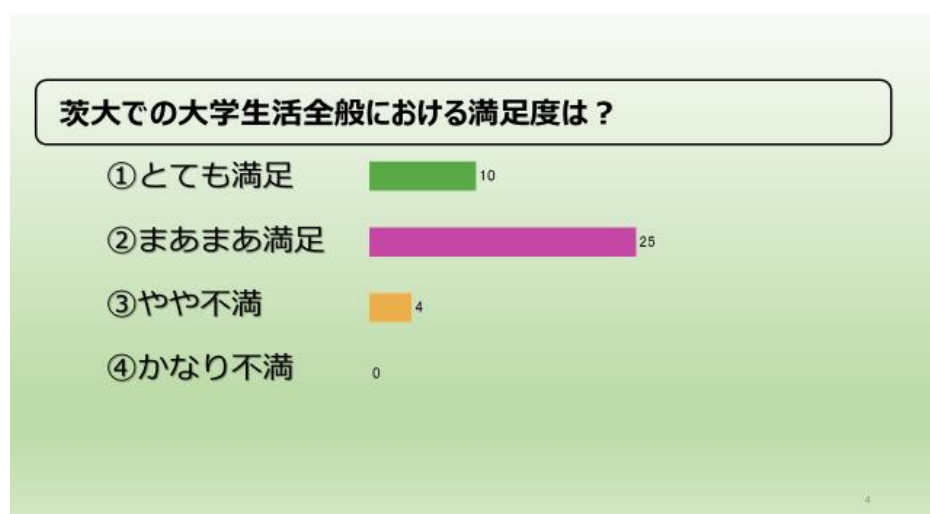
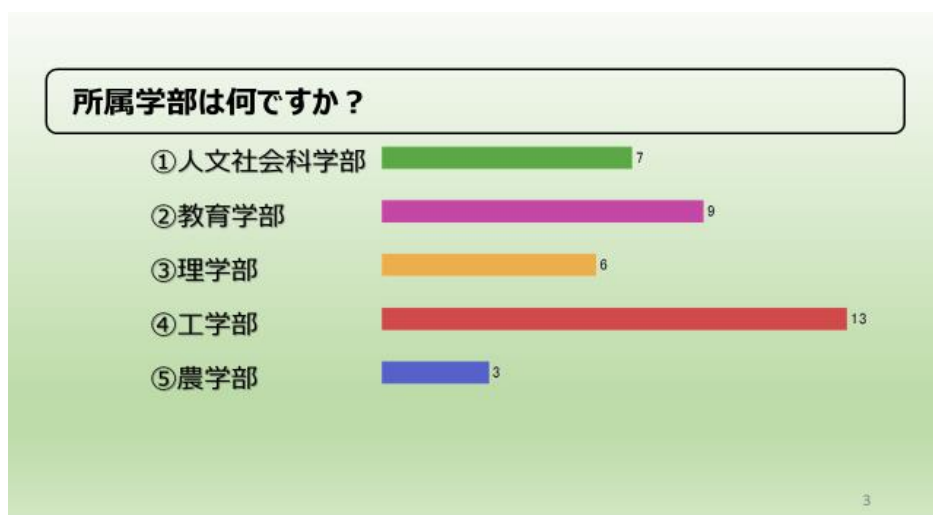
全学教育機構において、学長と学生の懇談会にて聴取した学生からの意見や「アンケート」の内容を踏まえて改善を検討する。

また、学生からの意見・要望等のうち、全学教育機構以外が所掌する事項については、関係各所への情報提供、および改善の可否等の照会を行う。検討の結果、改善されたものなどについては、学内に掲示し、学生へのフィードバックを行う。

8. 学長と学生の懇談会の様子

	
写真：懇談会の様子（1）	写真：懇談会の様子（2）
	
写真：懇談会の様子（3）	写真：懇談会の様子（4）

平成30年度後学期 学長と学生の懇談会 における質問事項の 結果および学生から の意見



【意見交換】

人文社会科学部学生:「とても満足」大学内で暇な時間を潰せるいろいろな場所があるところ。

学長:なるべく長く大学にいたいと思えるように作った。

学生:「やや不満」共通教育センターや学務係の窓口の時間について、授業の合間に寄れなかったりサークル帰りに寄れなかったりした時に閉まっている。



授業における全体的な満足度は？



6

【意見交換】

人文社会科学部学生:「やや不満」授業時間内でグループ行動する時が増えたが教授が見ていない活動の部分が教授に評価されないところがある。

学長:能動的授業をする中でそれがどう、評価されるかというところですね。

教育学部学生:各個人が受ける授業の質に差がある気がする。教授毎にすごく内容の濃い授業をする先生もいれば、自分の世間話で終わってしまうような方もおり、私達は何のために大学に来ているのかと思う時がある。

学長:そういう授業の割合は？

学生:ちょっと抑えて30%。

学生:多様性の考え方ができる方があまり見受けられない。

工学部学生:「やや不満」試験で授業の内容とケタハズレの問題とか出されたりすると授業を受けているのにいかななものかと思う。

学長:試験のレベルが合っていない等感じている人はどのくらいいますか。

挙手余り多くなかった。

大学の学修は受験を目指した高校までの学修と異なり、より能動的な姿勢が求められますが、能動的学修（文献調査、データ収集等）が増えた実感はありますか。



7

【意見交換】

学長:どういう点か。

学生:気を抜くと単位を落としかける。宿題はレポートが多い。それに対しての正解がほとんどないので自分の思ったことが書ける。

学長:問題を解いて、大学入試のように「マル」を貰えるような勉強ではない。

農学部学生:自分たちでプレゼンを作って、正解がない問題に対しどう解決していくかを考えていくところがいいところ。(授業:農学部の農学入門)

授業外の学修時間について、大学入学後変化しましたか？



8

【意見交換】

理学部学生：レポート等で大学の図書館に足を運んで調べるようになり、学修する時間が増えた。

人文社会科学部学生：「増えた」教授から出された問題に対して、1つ1つに考える時間が長くなった。

工学部学生：「減った」基盤科目が多く、まだ専門科目ではないので調べるといった時間は少ない。サークル等の時間が多い。

大学での学びは入学前に期待していたものと比べてどうでしたか？



9

【意見交換】

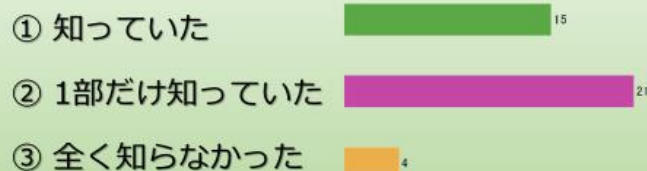
学長：期待と少し違っていた、大きく外れていたという人の意見を聞かせてください。

工学部学生：機械システム工学科だが元々は知能システム工学科に入りたかった。でも統合されたので機械システム工学科に入った。車を作ることのイメージが強く、「システム」を入れなくてもいいのでは？期待外れのところもあるが、興味が惹かれるところもある。

工学部学生（物質科学工学科）：基盤科目について、自分は心理学にも興味があり、入学前は少しその勉強もできるかなと思ったが、履修を見るとないので、教育学系の授業も工学部でできるといいと思う。

茨城大学のディプロマポリシーが以下の5つであるのを知っていますか？

- ① 世界の俯瞰的理解 ② 専門分野の学力 ③ 課題解決能力・コミュニケーション力
④ 社会人としての姿勢 ⑤ 地域活性化志向



10

大学入学後、茨城大学ディプロマポリシー（5つ）のうちどの力が最も伸びたと思いますか？



11

【意見交換】

学生：「社会人としての姿勢」が入っている授業があまり見えないと思う。他の4つのディプロマポリシーは入っているが、社会人としての姿勢が育つ授業はあまりない。

理学部学生：世界の俯瞰的理解という言葉が少し難しいと思った。自分は、理学部だが、CAP制でグローバルな授業がとれない。

学生：「課題解決能力・コミュニケーション力を選んだ」授業で隣になった人と初めて話をして、先生から出された課題を解決することがほとんどの授業にある。また、サークルに所属しているが、いろいろな学生と接することで、コミュニケーション力が上がった。

工学部学生：ディプロマポリシーを5つ掲げているが全部をやっている授業があまりにも少ない。工学部なので、専門分野の学力は伸びるが他は自分で意識しないと伸びないと思う授業が多い。クォーターの授業だと期間が短いのでそこまで深められるのか？

工学部学生：一番伸びたのは専門分野の学力。

学生：ディプロマポリシーは日本語ではだめなのか？

学長：日本語に置き換えることができるのか、あるいは日本語も併記できるか考えてみます。

人文社会科学部学生：専門分野の学力について、風の噂で労働法と民法の先生が来年茨城大学から異動になると聞いた。新しい先生が入って来ても1年間はゼミを持ってないので、労働法と民法を学びたい私達はどうか？

学長：先生が急に大学から異動になることはある。学部の担任の先生に言ってもらえると教務委員長に話が行き対応を考えてもらえると思うので相談して欲しい。多くの先生が次年度非常勤講師として来て開講する。

学長：大学で皆さんが身につけたいものは何ですか？「知識スキル」、「思考力・表現力」、「態度（物の見方）・世界観」のこの3つの中で大学に入ってどういうものを一番期待しているか？

<挙手の結果>

- ・「知識スキル」が重要と思う人：全体の1/2くらい
- ・「思考力・表現力」が重要と思う人：全体の1/3くらい
- ・「態度（物の見方）・世界観」が重要と思う人：全体の1/6くらい

基盤教育では英語教育に力を入れていますが、大学入学後英語力は伸びましたか？



12

【意見交換】

農学部学生：クラス替えがない、センター試験の結果でクラスを決めていると思うが自分や友達のレベルなら分かる単語でも先生が分からないと思って説明する。前期が終わったときに授業アンケートに改善点を書いたが後期になっても改善がなかった。

学生：学生のレベルにあった講義をしてくれない。指摘しても変えてくれない。

学長：教員にシェアします。今の英語の授業についていいところ、悪いところ何かありますか？教えてください。

人文社会科学部学生：簡単な授業に合わせて自分は学力が落ちたかなと思う。

人文社会科学部学生：高校が英語に力を入れている学校だったということもあるが、今の大学に入ったときの英語の最初の授業がショックだった。2年生になったらプレゼンテーションがもっと減るから楽になるよと言われ、これ以上減ったらどうなるんだろうと思った。レポートも先生方が思っているよりも私達はもっとできるので、勉強するからにはもっと上のレベルの設定で私達が頑張るのもいいのではないかな。

人文社会科学部学生：自分はあまり英語が得意でないので、プラクティカルイングリッシュで英語をしゃべらなくてはいけないと思ったり、また分かるようになったりすることはすごいと思う。自分はプレゼンでは満足しているが、文法に関しては中学生でもできるのではないかなと思う時もある。そこは、レベルアップしてもらいたい。

理学部学生：自分は逆にやるが多すぎて何やってるのかなと思うことがある。英語の先生が英語で話してもOKしか聞き取れない。教科書とかはなしで、プレゼンとかに力を入れたらいいのかなと思う。

学長：TOICの試験をやって成績が返ってくることにいいなと思う人は？

学長：そう、いますね。今の話は、英語の先生にフィードバックして考えたいと思います。

iOPについて、何をしようと計画していますか？



13

学生生活全般について

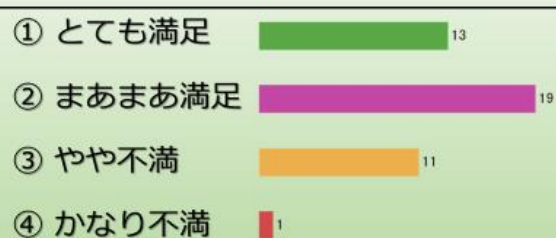
14

学外活動（部活、サークル、ボランティア など）における満足度は？



15

学修環境（図書館、ラーニングコモンズ など）における満足度は？



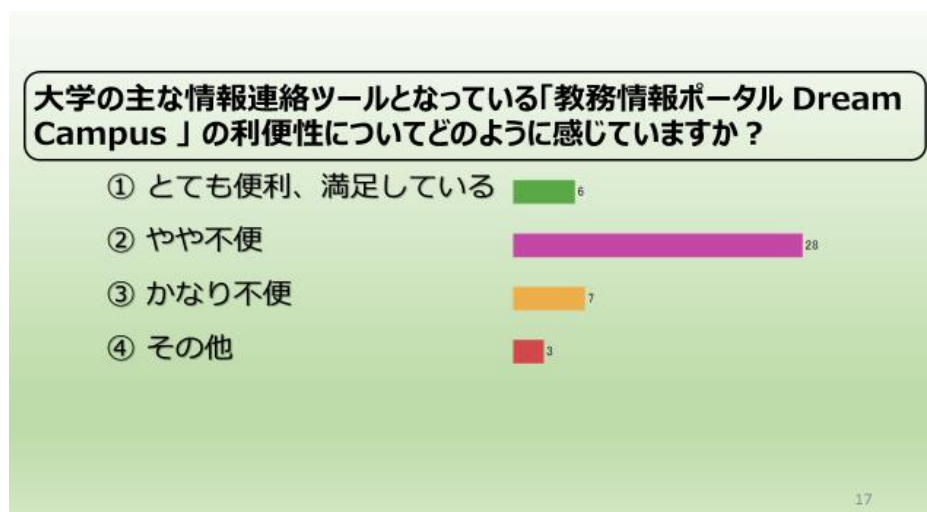
16

【意見交換】

学長：問題点があれば教えてほしい

理学部学生：図書館の資料が若干古い。情報が足りない。先輩から話が聞ける学修相談をやっていただいているのはよいが、やっているのが昼休みで、3限があるので時間が足りない。やっている時間を考えてほしい。

工学部学生：オフィスパワーを何日か設けて欲しい。（例：週1回1時間を週2回30分ずつに）



【意見交換】

工学部学生：2週間入院したが連絡先アドレスが空白の教員が多く、先生に直接連絡する時不便だった。

学長：先生と何らかの連絡をとれるようにすることは必要。

教育学部学生：履修登録の大事な期間に限ってドリームキャンパスが突然動かなくなって、結局履修登録ができてなかったり、履修登録できていないからやり直してくださいと連絡があり、学務にいくとあなたが悪いというようなことを言われたりする。去年の3月及び今年の秋もそうだった。

学生：履修登録の連絡先がほしい。

工学部学生：後期の体育の授業を受けるとき、8:35分に休講の掲示が出された。ドリームキャンパスで早めに休講を教えて欲しかった。

大学生活で「不便に思っていること」もしくは「改善すればもっと良くな
 ると思うこと」はありますか？

- ① ある
- ② ない

20

機器が不具合のため挙手にて回答を求めた。
 結果:多くの学生が「ある」

【意見交換】

学生:図書館の資料を増やして欲しい。調べものをするのに検索システムが順番待ちになってしま
 う。システムを増やして欲しい。

学生:サークル棟トイレの詰まりが直ったら掲示等をして知らせしてほしい。

学生:教職をとっていると講義が長引いてしまい、iOPに留学できないので改善して欲しい。CAP
 制について上限をなくしてほしい。

CAP制について、学長からCAP制の意味の説明あり。

学生:駐輪場について、生協の後ろの駐輪場をよく使っていたが、現在使えない。ちゃんとした場
 所において、自転車を壊された。駐輪場を増やし、防犯カメラも設置すべき。

人文社会科学部学生:夏に大学が用意した留学(AIMS)でブルネイに行った。留学前に詳しい
 こと持っていくもの等準備について知りたかった(先輩からの話だけだったのだ)。

教育学部学生:ドリームキャンパスに授業を行う教室をしっかりと記載してほしい。北門だけ土・日・
 祝日が閉まっている。警備を徹底するのであれば、全部の門を閉めたり、あるいは半門に
 してほしい。また、北門だけが閉まっている理由を教えてください。

教育学部学生:一人暮らしの学生は朝家事で忙しいので、1限の時間を30分遅くして欲しい。
 茨城学で学んだ内容が茨城キリスト教大学と常磐大学で共有されることは知っているが、
 もっと茨城の地域をよくしたいのであれば、筑波大学にも共有すべき。

時間割については、学長より理由を説明(了解してほしい)

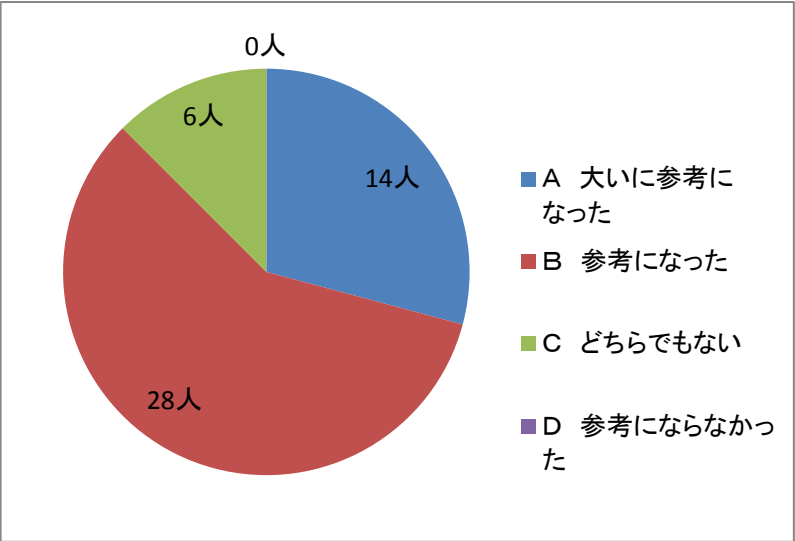
教育学部学生:基盤教育の事務に関して抽選漏れで自分がやりたい科目が取れなかった。なる
 べく自分の希望する科目を取れるようにしてほしい。1年間休学したが休学書類を出すとき
 に共通教育センターと学部の学務係がTOEICについての扱いについて、相違があった(1
 年次に受ければその成績が使えると言われたが、他では再度受けるように言われた)。き
 ちんとすり合わせてほしい。

学生:旧駐輪場について、人文社会科学部の後ろ(もう駐輪してはいけないところ)にまだ駐輪して
 いるので、その自転車を取り払ってほしい。正門前で忘れ物を受け取った時、警備員に手で
 振り払われる等失礼な態度をされた。授業料免除の申請をする時、整理券を取るが担当し
 た事務員によって対応が異なった。(書類について、友人は対応された人に足りると言われ
 たが、自分は他の人に対応してもらったが足りないと言われた)

平成30年度後学期 学長と学生の懇談会
実施後に行ったアンケートの集計結果

アンケート提出者：48名 / 懇談会参加者：48名 （回収率：100%）

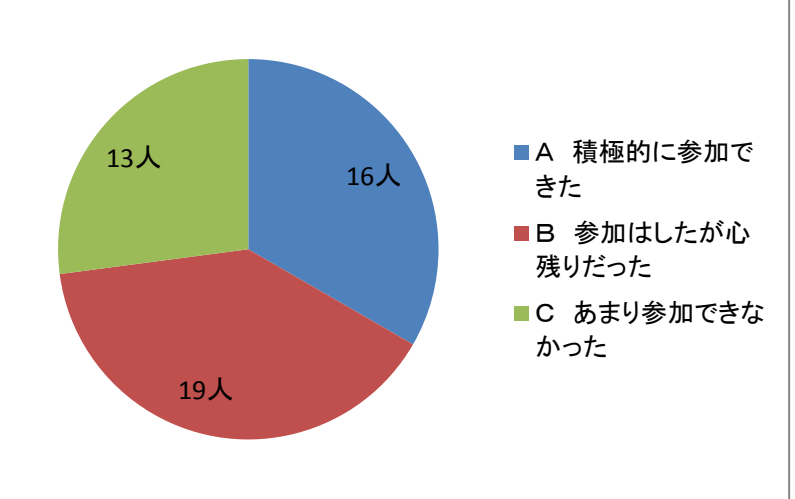
1. 懇談会の内容は参考になりましたか？



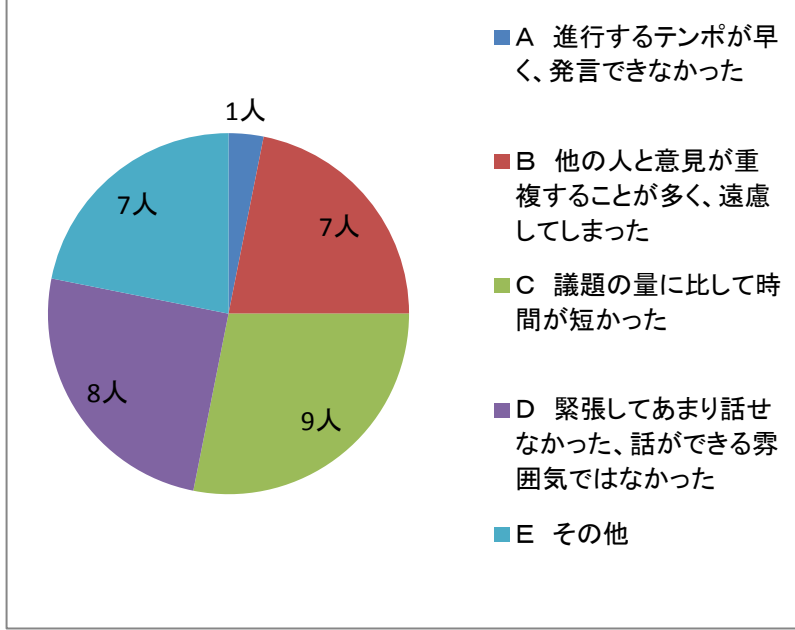
参考になった主な内容

- ・英語教育についてクラス分けに問題があると感じた。また、得意不得意も考慮すべきだと思った。
- ・詳しい情報が手に入った、返答等も多く深く知れた。
- ・他の学部、学科の学生の様々な意見を聞くことができた。（5人）
- ・学長にその場で回答いただいて良かった。
- ・時間割について（2人）
- ・学修の考え方。
- ・基盤教科の必要性がわかった。
- ・色々と自分の気になっていた点について質問することが出来た。（3人）
- ・自分の思っていること(不満等も)を他の人も思ってるんだなという共有・共感ができた。（3人）
- ・自分では気づかないような意見を多く聞けた。（4人）
- ・学長や色々な部門の方が改善のために動いていることやどのように取り組んでいるのか知れた。（3人）
- ・CAP制の説明がとても納得できた。

2. 懇談会では、積極的に意見を出せましたか？



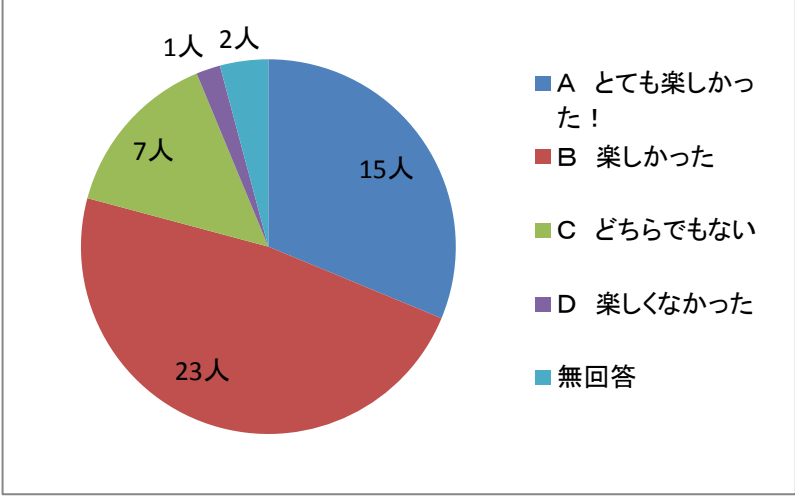
3. 参加はしたが心残りだった、もしくはあまり参加できなかった理由を教えてください。



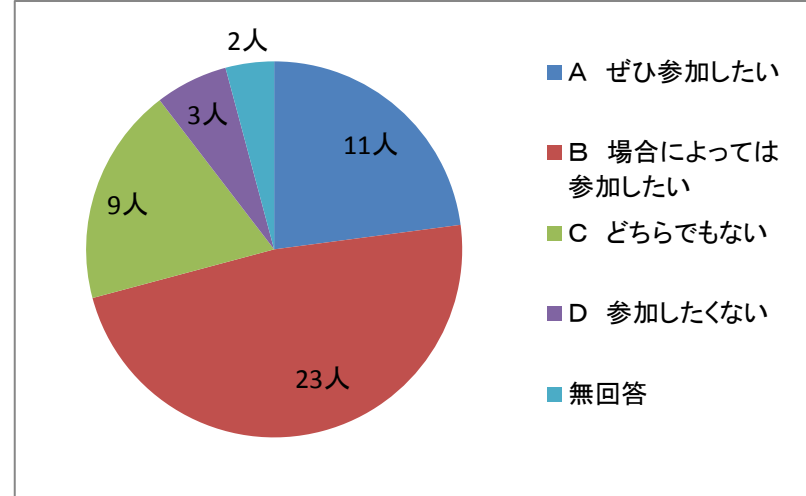
「E」の具体的な内容

- ・次から次へと頭の中で言いたいことが増えたから。
- ・特に大学について意見はないから。（2人）
- ・途中参加のため、既出の質問と被るのが不安で質問できなかった。
- ・自分の意見が自己中心的なもので、それも学生代表という形で話すことが後ろめたかったため。
- ・参加が途中からとなってしまう、あまり話が聞けなかった。
- ・懇談会に最後まで参加したかった。（食生命と地域総合で時間が分けられていたため）

4. ズバリ！ 学長とお話しするのは楽しかったですか？

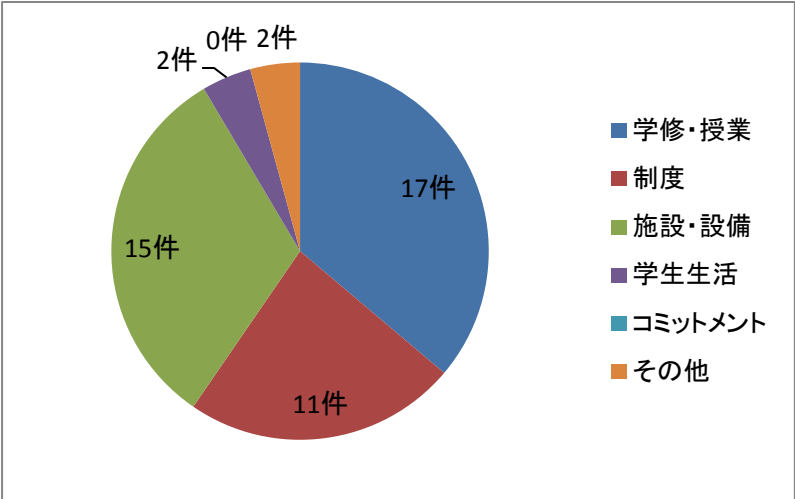


6. 今後、同様の懇談会が開催されたら、参加したいと思いますか？



5、7、8は自由記述の設問だが、記載内容により項目立てをして集計を行い、各項目の意見の要旨を記載する。

5. 今回の懇談会では伝えきれなかった大学へのご意見・ご要望をお聞かせください。



「学修・授業」に関すること
・授業体系に違和感のある授業がある。ただの自己満足で終わらせてほしくない。
・工学部でも普通高校理科の教員免許をとれるようにしてほしい。
・遠隔授業を増やして欲しい。
・補講が予備日に入るのは良いが補講がかぶることがあった。
・身体活動で屋外ボールゲームをとっているが男女一緒にドッチボールをしたりサッカーをするのはどちらも遠慮して良くないと思う。
・農学部にも所属しているが、教職で高校の免許しか取れないので中学校の理科の免許もとれるようにしてほしい。（複数人の声あり）
・水戸通いしなしいけない教科が多い。
・出欠席をとらない授業があるのは、問題かと思う。
・都市システム工学科は、2年次から2コースに分かれるが、他学科・他学部は担任の面談があったらしいが、そのような面談が一切なかった。重要な選択であるためちゃんとやるべきだと思う。コース選択に関していつどのように行われるのかが明確でないため示してほしい。
・私は工学部だが、単位を落としてしまうと2年次以降水戸に通うことになってしまうので、成績が出るたび怯えている。日立でも開講していただけると楽になるのだが。
・この授業は何の目的・目標があるのかをはっきり伝えてほしい。
・理学部の授業量に対する授業時間が足りないと思う。理解が追いつかない。
・シラバスの授業内容を具体的に書いて頂きたい。
・英語の授業が不満。英語に力を入れている大学とは思えない。高校の授業よりレベルが低く、先生の話の8割が英語力に役に立つと思えるものではないので、改善してほしい。
・必須科目で得られる新しい知見が少ない。高校卒業程度の人で、これを知らない人はいないだろうと思われるようなことを教える先生がたくさんいる。講義内容の見直しをして欲しい。特に、新入生はやる気に溢れており、大学とはこういうものだと思えていくと「社会化」の過程でたくさん勉強する習慣が身につくように新しいことを教えて欲しい。受ける価値のある講義を受けたい。高校までそれぞれ履修した科目は違うので、足並みをそろえるため授業をするのではなく選択してほしい（生物など）。オムニバス形式の授業や、必須科目の授業では先生の中で連携をとって誰がどれを教えるかという連絡などを取り合ってほしい。聞いた話や見たことのあるスライドを使い回す先生も少なくない。「報告・連絡・相談」をしてほしい。
・学部によってGPAに大きな差がある。大学院に進学する人には必要なので、農学部の前期平均は2.8位だったが、工学部は2.2位だった。こんなバラつきがあると、私（農1年）が2年になったときにはどうなるんだと思うと怖い。
・農学部1年は先生に質問しづらい。オフィスアワーに聞けない、メールアドレスがシラバスに載っていない。
・大学院へ進学する人はどのような勉強をしていたのかが知りたかった。
・休学転学等重要項目に関する手続き方法を分かりやすいところに掲示等してほしい。
・授業の質が低いように感じる。教育学部だが、児童生徒の命を預かる立場であるのにこんなに生ぬるいことをしていてよいのか。本当に不安になることがよくある。先生の言っていることとやっていることが違うと感じることが多々ある。
・ドリームキャンパス上で小テストをする授業があるが、その解答、解説が全く見れない授業があり、復習できないのできちんと問題と解答、解説を公開したままにしてほしい。セメスター授業で3クオーターと4クオーターで先生が変わる授業があるが、まだ期末試験が終了していないにもかかわらず、3クオーターの先生が講義資料をすでに削除してしまっており、現在試験勉強に苦労している。その授業には教科書もないので単位が取れるか不安。期末テストの結果を点数だけでなく、どの問題を間違えたのかきちんと明示してほしい。2年生からの授業と繋がっている授業もあり、その場合その上位科目の理解度にも影響するのでその辺のフィードバックをきちんとしてほしい。
・レポートボックスとポータルシステムのどちらでもレポートが提出出来るように統一してほしい。
・ドリームキャンパスでレポートを提出すると隣の欄のレポートが消えるので直してほしい。

「制度」に関すること
・ i OPの話でインターンには興味はあって知りたいこともたくさんあるのだが、どの説明会も「1年生も参加OK」というような形で、授業中だったり参加できないことが多い。1年の時期から1年向けのインターンの説明会があるとよい。
・ ドリームキャンパスの「お知らせ」と「メッセージ」の区分が分からない。「お知らせ」が雑多すぎるのでタグ付けして欲しい。
・ D.C.の小テストの答えが化ける。D.C.のメッセージをソート出来るようにしてほしい。
・ ドリームキャンパスで成績情報が登録された時に、何かしらのメッセージが受け取れたらいいと思う。
・ 長期休みでドリームキャンパスの停止は資料などが見れず不便である。
・ドリームキャンパスにログインした後のトップページの時間割に教室を表示させて欲しい。(2人)
・ i O Pの期間に工学部は必修の授業があり、留学等ができない。できれば必修の授業を他のクォーター、セメスターにずらしていただけるとありがたい。

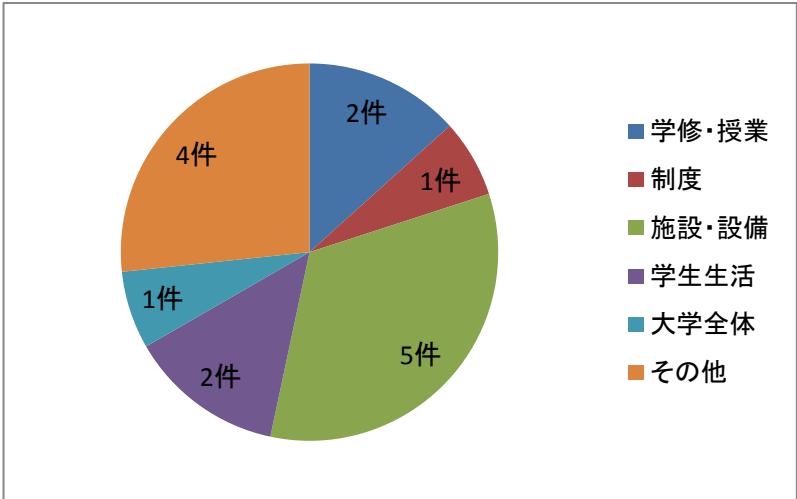
「設備」に関すること
・ 共通教育棟のトイレには石鹸や便座クリーナーがあるのに教育にはないので設置してほしい。
・ 駐輪禁止の場所に駐輪しないよう、地面に書いてある自転車マークをもっとちゃんと消してほしい。
・ グラウンドの外灯をもっと全体が照らせるようなものにして欲しい。外部活だと冬に関しては5時で精一杯になってしまって、不利だと感じる。グラウンドにコイン式の電灯を置いて欲しい。ナイター練習がしたい。(2人)
・ 日立キャンパスの図書館の学習机、学習スペースを大幅に増やして欲しい。
・ 各キャンパス間の格差(学食や生協等)をもっと減らして欲しい。
・ 図書館を朝早くも開館してほしい。(1限前に課題をやったり、新聞を読んだりなど、授業前に図書館でやりたいことが多いため。)
・ 図書館において一人の学生が在学中にリクエストできる本、資料の冊数を増やして欲しい。
・ 日立キャンパスの図書館が水戸キャンパスに比べてあまりにも規模が小さい。
・ 女子寮が大変使いにくく、故障を伝えても全く対応してもらえない。
・ 教室によってはマイクやオーディオ機器・プロジェクターが上手く動かず授業に支障が出ることが多い。(2人)
・ ずっと掃除されていないであろう部屋がある。
・ 図書館の書庫が夏は暑すぎ、冬は寒すぎてゆっくり本を探すことができない。
・ 図書館や教育学部C棟の個人練習で暖房が効いてないときがあり、勉強や楽器の練習に支障が出る。きちんと暖房を効かせてほしい。
・ 図書館の休日の開館時間を平日と同じにしてほしい。

「学生生活」に関すること
・ キャンパスのアクセスをしやすくして欲しい。
・ 学友会事務局の運営をしっかりとって頂きたい。来年度の新歓祭の実行委員として1年生だけに負担を押しつけるのはどうか。

「コミットメント」に関すること
・

その他の要望
・ 正のフィードバックをする時間があってもよ良かったのではないかな。
・ ハラスメント疑惑がある。

7. 今後、このような学生懇談会を行う際に、議題にして欲しいテーマはありますか？



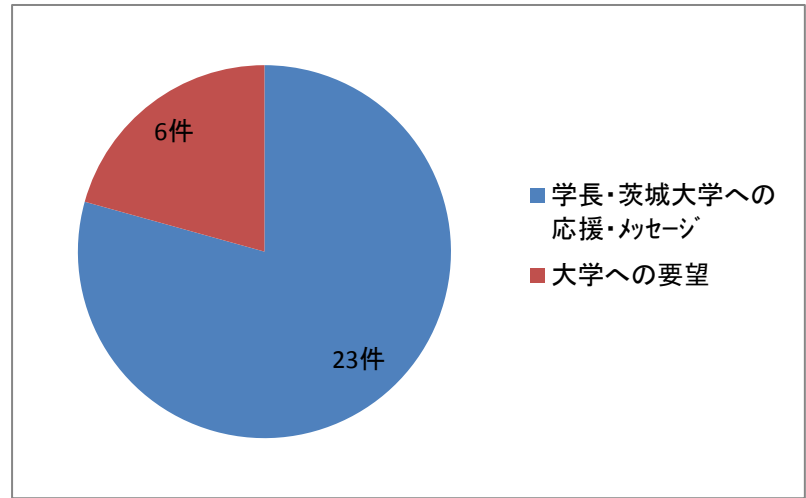
「学修・授業」に関すること
・ 学習のやり方
・ 授業や校外の学修について

「制度」に関すること
・ ドリームキャンパスについては意見のある人が多いと思うので毎年やってください。

「施設・設備」に関すること
・ 学内の施設整備については、常に気にすべき点。(4人)
・ 工業用の機械現状
・ 教室のスクリーンなど設備の問題で講義に影響があるなどの学修環境について

「学生生活」に関すること
・入学式や文化祭といった学校行事について
・学生生活や学校の警備について
「大学全体」に関すること
・茨城大学の今後に関する事
その他
・満足している点、不満な点を記入する箇所を別で用意すれば要望が分かりやすいと思う。
・生徒自身がどれくらいやる気があるかアンケートしてほしい。
・途中からの参加だったため全部把握している訳ではありませんが、テーマについては良かったと思う。
・学生からの質疑応答の時間がほしい。

8. 学長へのメッセージをお願いします！



学長・茨城大学への応援・メッセージ（原文ママ）
・茨城大学最高！
・今後も茨城大学のために頑張ってください！
・直に先生たちと話せる、その場で答えてくれる、そういう企画をしてくれるのはすごく親身な人なんだなと思いました！話せて楽しかったです。また懇談会開催してくれたら参加したいです。
・どの学部の話になっても、質問に対して答えを返していて、どこの学部のこともよく知っているなと思いました。
・丁寧に答えて頂いて有り難かったです。今日はありがとうございました。
・学長が意外と茨城大学について、把握していないことが多くて驚きました。
・入学式では真面目な方だと思ったが、学生に対してフレンドリーな方だとわかった。
・普段学長の話聞く機会がないので、とても貴重な体験となり良かった。
・気さくな感じで学生と話されていて、非常に良い印象でした。今回は話が出来なかったので次回あれば是非参加したいです。
・思っていたより場の空気が張り詰めていなかったのが安心しました。この雰囲気の方が意見も言いやすいと感じました。
・思っていたより話しやすかったです。これからもこういった機会を設けて頂けると有り難いです。
・学長がとてもフレンドリーでびっくりしました。
・良い経験になりました。
・学生のことをよく考えてくださる方だと感じました。これからもよろしくお願いいたします。
・初めての懇談会でどんな感じかなと思いました、生徒の意見をしっかり聞いて下さって、学長を身近に感じることができました。
・あまり学長は茨城大学のシステムが今どう動いていてそれがどのような効果を生んでいるのか把握されていないように感じました。もっと、各学部やセンターなどと情報を交換する機会を設けるとより良い懇談会、学校作りができるようになると思います。

大学への要望
・日立キャンパスにスーパーが欲しいです。
・もっと部活を大学側からも盛り上げて欲しいです。
・Dream Campusがもっと便利になること
・まだ一年生で茨城大学の5つのデイプローマポリシーについてあまり身についていると感じませんが、今後身につけることができるような授業や制度を期待しています。
・環境がいかに良くても学生に学ぶ熱意や意欲がなければ意味をなさないと思います。私の所属する学部は何のために勉強しているのかわからなくなってしまったという人が多く見受けられます。
・よりよい茨城大学を期待しています。

9. その他、懇談会に関する感想・ご意見等ございましたら、自由にお書きください。

・他の子が思っている事を聞けておもしろかった。
・すごく良い取り組みだと思いました。続いて欲しいと思います。
・もう少し人数を減らした方が一人ひとりがしっかりと意見を述べられる思う。
・私は工学部で来年日立キャンパスに行くので、今回の話で日立でも同じようなことがあれば、そちらでの改善等も考えてほしい。
・懇談会で議題に上がった内容がしっかりと改善されたと目に見える事が一番大切だと思います。今後、少しでも改善されれば、このような形で懇談会を行っていく意味があるのではないかと思います。
・参加させて頂きありがとうございました。他学部の人達の意見や考えを聴くことができ新たな課題を発見することができました。
・時間と参加人数が限定されすぎている。1つ1つのテーマに対してもっと時間を取り、多くの学生と議論をする必要があると感じる。学長と学生の直接懇談の場を設けたことはとても良いことだと思うので継続して行ってほしい。

ゲートキーパー養成講座

ゲートキーパーについて、あまり聞きなれないといった方も多いかと思います。ゲートキーパーとは、自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る）を図ることができる人のことで、言わば「命の門番」とも位置付けられる人のことです。自殺対策では、悩んでいる人に寄り添い、関わりを通して「孤立・孤独」を防ぎ、支援することが重要です。専門性の有無にかかわらず、それぞれの立場でできることから進んで行動を起こしていくことが自殺対策につながります。

大学生は、今後の自身の人生を考えて特に心の揺れの多い時期にあります。大学生の指導にあたる教職員の方々において、ゲートキーパーとしての知識を備えていることはとても有意義であると考えられます。この機会に是非一度、ゲートキーパーについて学んでみませんか。

<開催概要>

日時： 2019年2月12日（火） 13:00 ～ 16:00

場所： 茨城大学水戸キャンパス 図書館本館 3F
[ライブラリーホール、セミナールーム] (日立・阿見VCS配信)

講師： 太刀川弘和 先生（筑波大学保健管理センター 副センター長）
高橋あすみ 先生（筑波大学大学院人間総合科学研究科疾患制御医学専攻一貫制博士課程2年・臨床心理士）

対象： 茨城大学 教職員

主催： 保健管理センター、全学教育機構

<スケジュール>

第1部 (13:00～14:20) 水戸：図書館本館3F ライブラリーホール 日立：IT基盤センター長室 阿見：こぶし会館B研修室	『ゲートキーパーとは』 （座学講義）	ゲートキーパーとはどのようなものか、その役割と必要性について、初心者向けにスライドを用いて分かりやすくご講義いただきます。
第2部 (14:30～15:50) 水戸：図書館本館3F セミナールーム	『自殺リスクのある学生への対応研修』 （実技演習）	ゲートキーパーに限らず、学生の相談対応の際の注意点等について、実践的に講師から指導していただきます。

参加人数を事前に把握したいと思いますので、希望者はできるだけ **2月8日(金)まで** に学生支援課へ参加申込のご連絡をくださいますようお願いいたします。申込先: kagai@ml.ibaraki.ac.jp

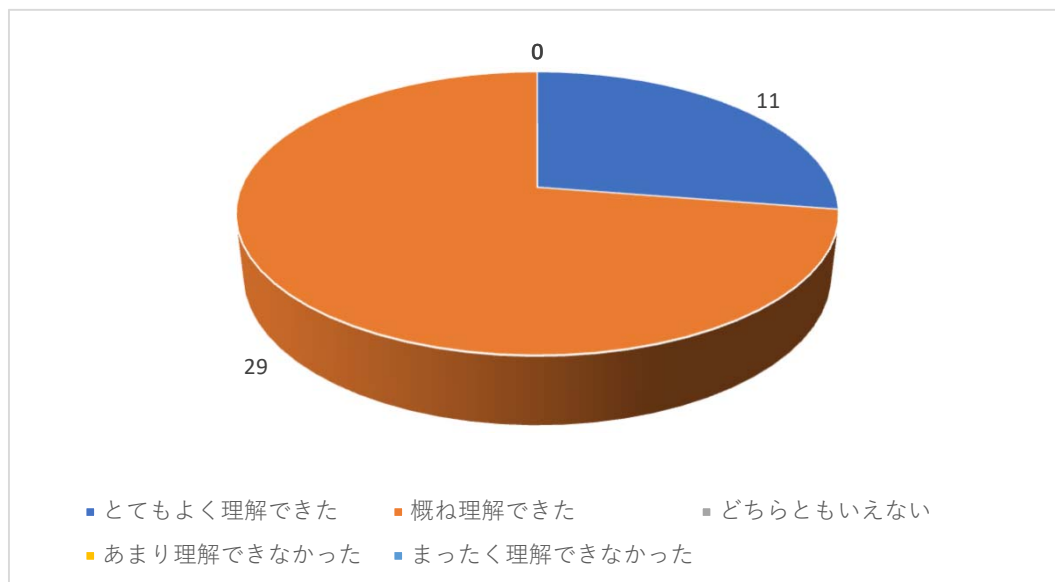
お問い合わせ：茨城大学 学務部 学生支援課

☎：029-228-8570

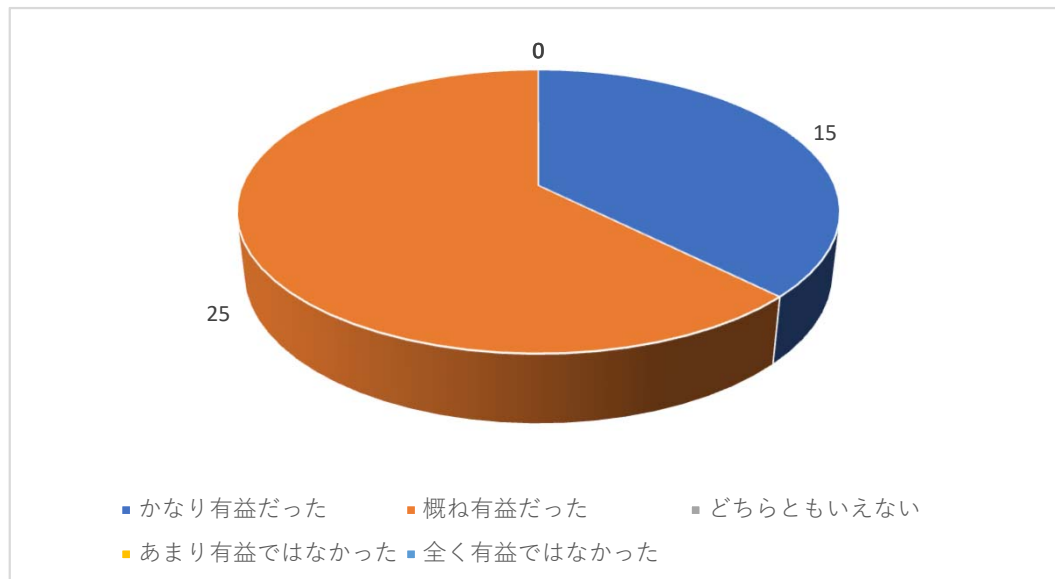
ゲートキーパー養成講座 アンケート集計結果

アンケート回答者数：40人

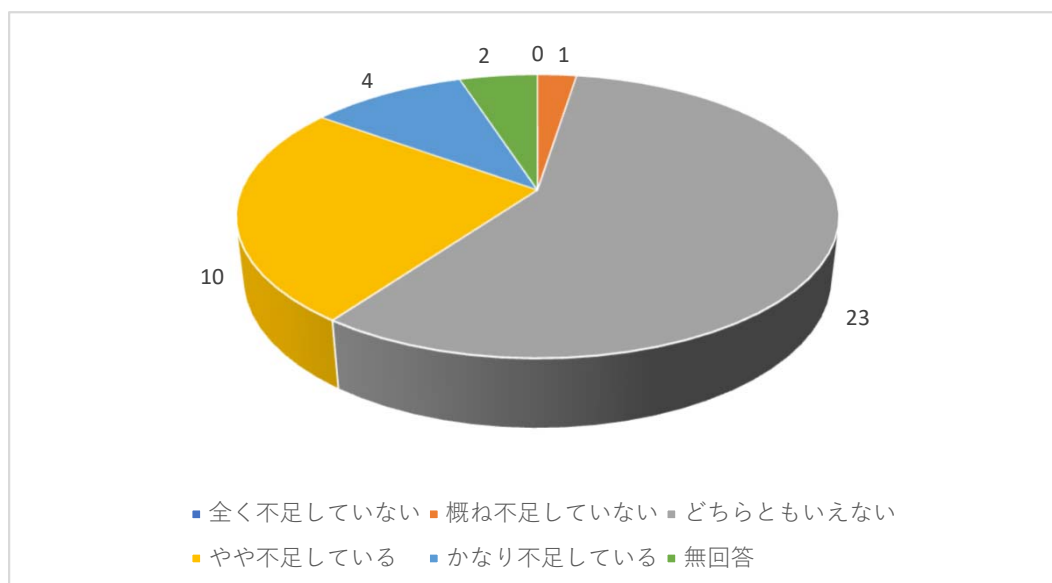
1. 本日の講座を受講し、どの程度ゲートキーパーについて理解しましたか？



2. 本講座の受講はあなたにとって有益でしたか？



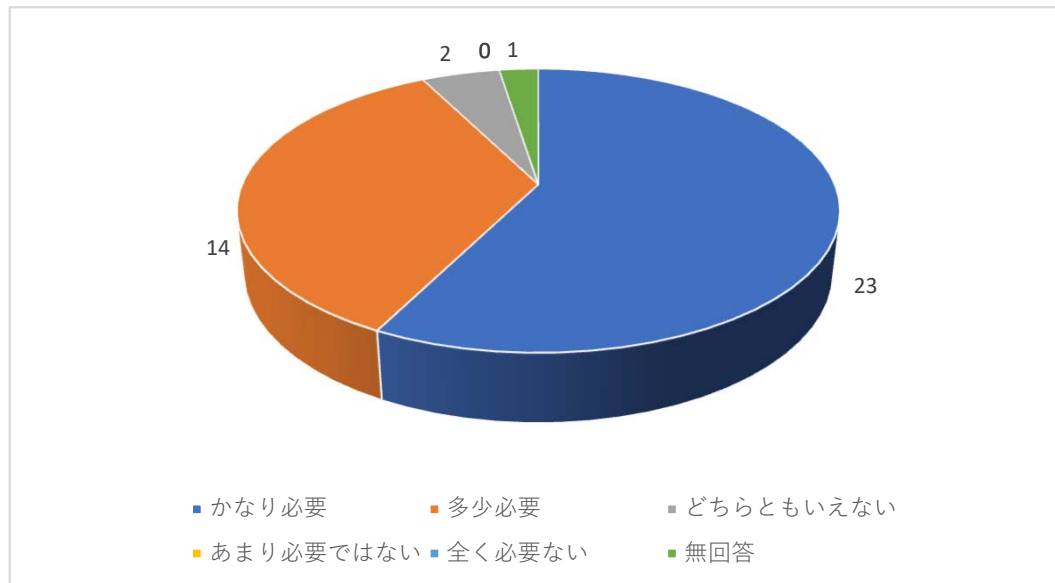
3-1. 本学において、学生の自殺対策は不足していると思いますか？



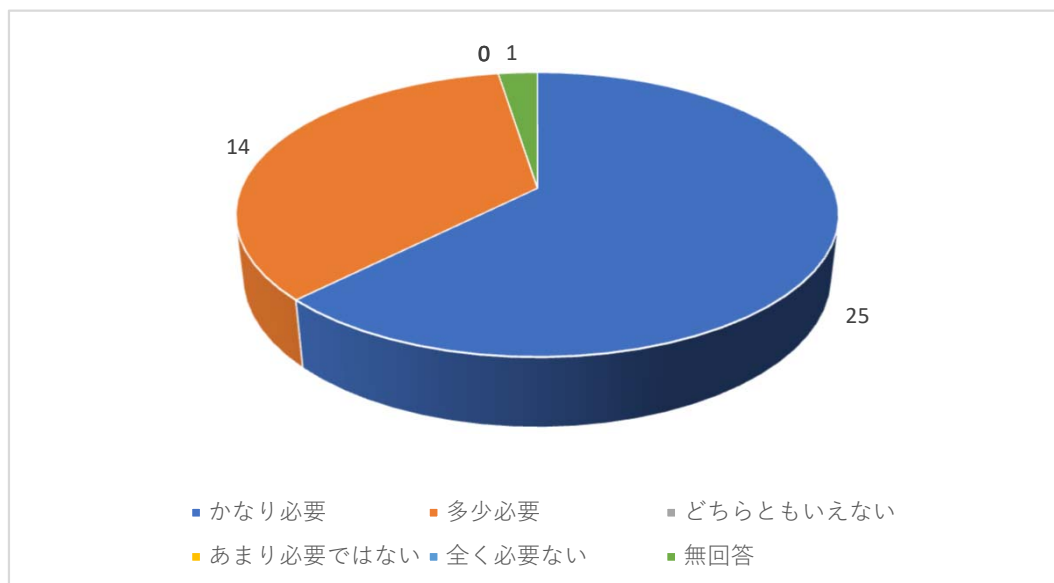
3-2. 不足しているとお考えになられる方は、何が本学の学生自殺対策で不足していると思いますか。

- 意識不足。
- 親に連絡をする（すべき）タイミングと方法が不明確であるため。
- 相談先が明確でない。
- 制度（学生相談、担任制）は、かなり整備されていると思うが、自殺対策講座やビデオ教育などはあった方がよいのではないか。
- 筑波大学と比較すると足りないものが見えてきた。
- 学生を気にかける教員・職員が他大学に比べて少ないと感じる（不親切・対応が雑）。そうじゃなければ同日に自殺者など出なかったと思う。非常に無念。
- 特別な自殺対策については、知るところにありません。
- 自殺したい者が周りにいた場合、適切な対応を意識的にとれる者は皆無と感じる。
- 「なんでも相談室に入りにくい」という学生の声をよく聞きます。相談例を見せるなどして利用しやすくできないかと。
- 自分は「Mリスク者」です。学内ではだれにも相談できませんでした。自分でみつけるしかなかったです。
- 具体的な対策を知らない教職員が多いのではないか。
- 学生の実態を把握し、問題がある学生を相談機関に紹介することはしてきたが、自殺の可能性を意識することは少なく、また、感じた場合に、具体的にどこに相談すべきか、教員が対応すべきか、これまで考える機会がなかった。

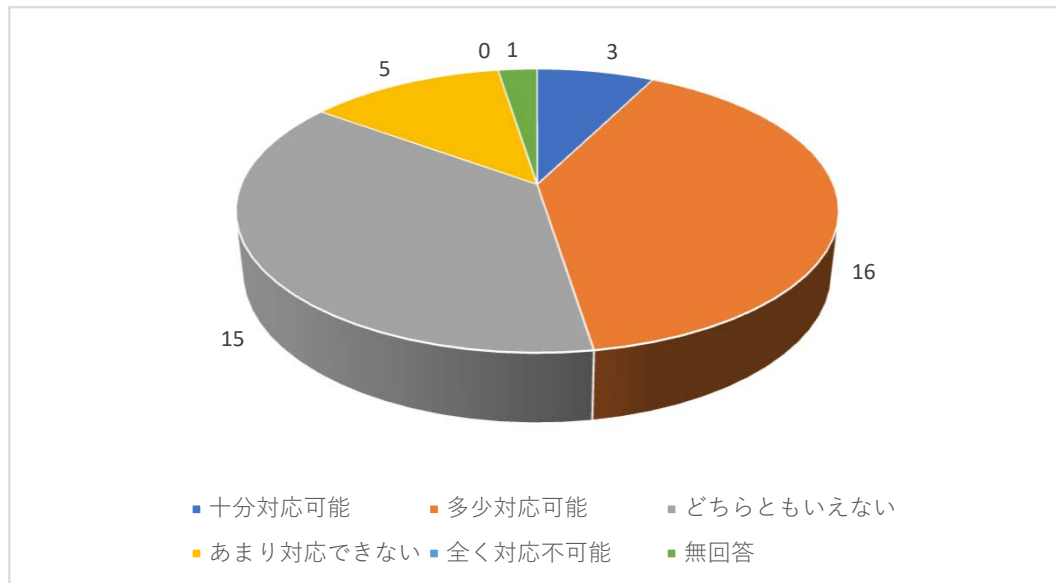
4. 自殺対策やメンタルヘルスケアに関する授業を、本学学生に対し行う必要があると思いますか？



5. 本学において、ゲートキーパーのような制度は必要だと思いますか？



6. 自殺のリスクのある学生を発見した場合、自分がゲートキーパーとして対応できそうですか？



7. その他、本講座を受講した感想、本学における自殺防止に関する対策等に関してのご意見等がありましたら、ご自由にご記入ください。

○学生の自殺予防について、真剣に考える機会をつくっていただき、大変良かったと思います。

○ポストベンション活動は可能です。（自分はAA経験者です）

○メンタルヘルスケアに対する知識等はもちろんであるが、教員サイドにメンタル面での余裕がないと対応することは難しいと思う。

○学生の1番の負担は、「選択肢がなくなること」だと考える。卒論が書けなかったり、就職先が決まらず命を絶つのは、セーフティネットがない、あるいは知られていないことが大きな理由。これに基づくと、iOP期間を有効に使えなかった学生は危険。フォローが必要。

○個別の対応の具他例について知りたいです。大まかなことについては分かりました。勉強になりました。

○自分が学生だった頃も、悩みや不安を周囲に打ち明けることができずに長い間悩んでいた期間がありました。教職員1人1人がもっと周りを見て、気にかけることで防げることもたくさんあると思います。今の学生はナイーブです。関わり方を今一度改め直してもいいのかなと思いました。

○自殺後の対応について、教えていただき大変有益でした。有難うございました。

○ゼミの場で会話することはあるが、それだけでは不十分だと感じる。ゼミの時間は学生の様子を知る上で、大切な時間だと考えているので、90分、会話。90分、研究についての流れにしようと考えました。有難うございました。

○現在、リスクの高い学生と接しています。心構えは、多少理解しました。学生にも、そういう機能が大学にあると知らせるべきと思う。

○連絡の取れない学生がでたときに、どうすれば良いかととても悩みました。コースの教員に相談して良い方に進みました。「もしかして」と感じられる教員でありたいと思いました。今日は有難うございました。

○ゲートキーパーとして「つなぐ」としても、保健管理センターで、その後、対応されるのか分からないと不安。

○ゲートキーパー養成講座等があれば参加してみたい。相談が当たり前、話すのが当たり前の環境となれば良い。

○保健管理センターとバリアフリー推進室などもこの一つでは？既に存在すると思ってましたが。

○学生にもっと資本、エネルギーをかけなければいけないと思います。

○何でもいいから声をかけていくと言うことが、だれでも出来る対策の一つかもしれないと気付いた。

○勉強不足・知識不足がよく分かりました。もっと考えて、これからの仕事を行いたいと思いました。

○具体的な対策等が役に立ちそうです。有難うございました。

養成講座参加数

合計64人（水戸48人、日立9人、阿見7人）

説明概要

議題名 (説明者)	学生担任マニュアルの作成について（西川学長特別補佐）	
趣旨・目的	学生担任マニュアルの作成について報告する	
背景・ 経緯・ ポイント など	茨城大学では、平成29年に「学生支援の基本方針」が策定され、教育目標等の達成のため学生支援の充実を図ることが定められている。これらの方針を達成するため、学生担任制度を制度化された学生支援を行う重要なものと位置づけ、担当学生の修学状況及び学生生活状況の早期把握による要ケア学生の発見とフォローアップを主な目的とし、学生担任マニュアルを作成する。 【作成スケジュール】 1. 平成31年度 ①学生担任マニュアル（案）をもとに、各学部で試行的運用を行う。 ②試行の結果を踏まえて、学生担任マニュアルを修正し、「中央学生委員会」、「副学長・学部長会議」、「教育研究評議会」で審議し作成する。 2. 平成32年度 運用を開始する。	
委員会・ 会議等における審 議等経過 や今後の 予定など	平成31年3月26日	中央学生委員会 審議
	平成31年3月27日	教育研究評議会 報告
その他		
担当	学務部 学生支援課	

2019 年度
茨城大学〇〇学部
学生担任マニュアル
(案)

目次

1. 学生担任制度の趣旨と目的	1
2. 学生担任が行うことについて	3
1) 全員面談の実施	
2) 「大学入門ゼミ」の実施	
3) 授業の出席状況確認	
4) 単位修得状況の確認	
5) 全学統一基準により抽出された成績不振学生等への対応	
6) 学生からの相談対応	
7) メールによる情報送信	
8) 研究室配属後について	
9) 連絡不能学生への対応について	
10) 学生担任による学生面談での基本姿勢	
3. 学科長等が行うことについて	8
1) 学生担任の推薦	
2) 学生担任名簿の各教員への配布	
3) 学生担任名簿の学生への周知	
4) 学生担任による全員面談実施状況の管理	
5) 問題発生時の対応	
6) 学生担任が欠員となった場合	
7) 学生からの担任変更希望への対応	
8) 学部教員等との情報共有	
4. 学生担任以外の教員が行うことについて	8
1) 体調不良等の学生への対応	
5. 学務部等が行うことについて	9
1) 単位修得情報の提供	
2) 1年次生受講科目の出席状況の提供	
3) 教務情報ポータルシステムでのデータ管理	
4) その他、学生への緊急対応	
6. 問題発生時や相談時の対応について	9
1) 呼び出しに応じない場合	
2) 学生からの突発的な相談について	
7. 過年学生等への対応	9
1) 過年学生等への対応	
8. 担任による学生相談の必要性	9

9. よくある質問.....	10
10. 学生相談窓口一覧.....	11

補足資料

- 1 : 茨城大学の3つの教育ポリシー
- 2-1 : 茨城大学の学士課程における成績不振等の学生への対応方針について
- 2-2 : 個別指導等実施記録
- 2-3 : 個別指導等実施報告書
- 3-1 : 面談情報整理シート
- 3-2 : 全員面談実施報告書

1. 学生担任制度の趣旨と目的

茨城大学では、平成 29 年に「学生支援の基本方針」が策定され、教育目標等の達成のため学生支援の充実を図ることが定められている。これら方針を達成するため、学生担任制度を制度化された学生支援を行う重要なものと位置づけ、担当学生の修学状況及び学生生活状況の早期把握による要ケア学生の発見とそのフォローアップを主な目的とし、運用する。

以下、本学の学生支援の基本方針を示す。

茨城大学学生支援の基本方針

（基本姿勢）

- ①茨城大学の教育目標及びディプロマ・ポリシーを実現するために学生支援が不可欠であることを共通理解として、学生の成長を支え、安全安心な大学生活を保障して、学生の誰もが茨城大学での学修を十分に行えることをめざす。
- ②そのために、障害学生、留学生など特別な支援を必要とする学生に配慮しつつ、学修相談体制の強化、学修環境・学生用施設の整備充実、生活・経済・就職支援等の包括的な学生支援の充実を図る。
- ③「学生支援の 3 階層モデル」に依り、「日常的な学生支援」、「制度化された学生支援」、「専門的學生支援」を充実させつつ、三階層間の連携に配慮する。
- ④教学支援を進めるパートナーとして、学生支援活動に学生自身が参加する機会を増やし、企画段階への学生参画の拡大を図る。

上記基本方針は、以下のような考えで策定されている。

戦後、我が国に SPS（Student Personnel Service）の概念がアメリカから導入された。この中では、入学前から卒業就職に至るまでの様々な状況に応じて学生を支えること、学生が心身の健康を保持増進できるようにすることなどを、大学の本質的役割とし、これらに全ての教職員が関与することなどが求められた。しかしながら、その後、これら取り組みは、社会情勢や予算等の側面により限定的にしか推進されない状況が続いた。その後、平成 12 年にいわゆる廣中レポートにより、「教員中心の大学」から「学生中心の大学」に転換すべきという理念が明確に打ち出され、「学生相談」が「大学教育の一環」として捉え直された。さらに平成 19 年には、いわゆる苦米地レポートにより、学生の課題や状況に応じて、多様な教職員が学生を支援する「学生支援の 3 階層モデル」による総合的な学生支援体制が出され、このモデルは今日多くの大学で採用されるようになった。

〈学生支援の3階層モデル〉（日本学生支援機構 2007）

〔日常的學生支援（第1層）〕

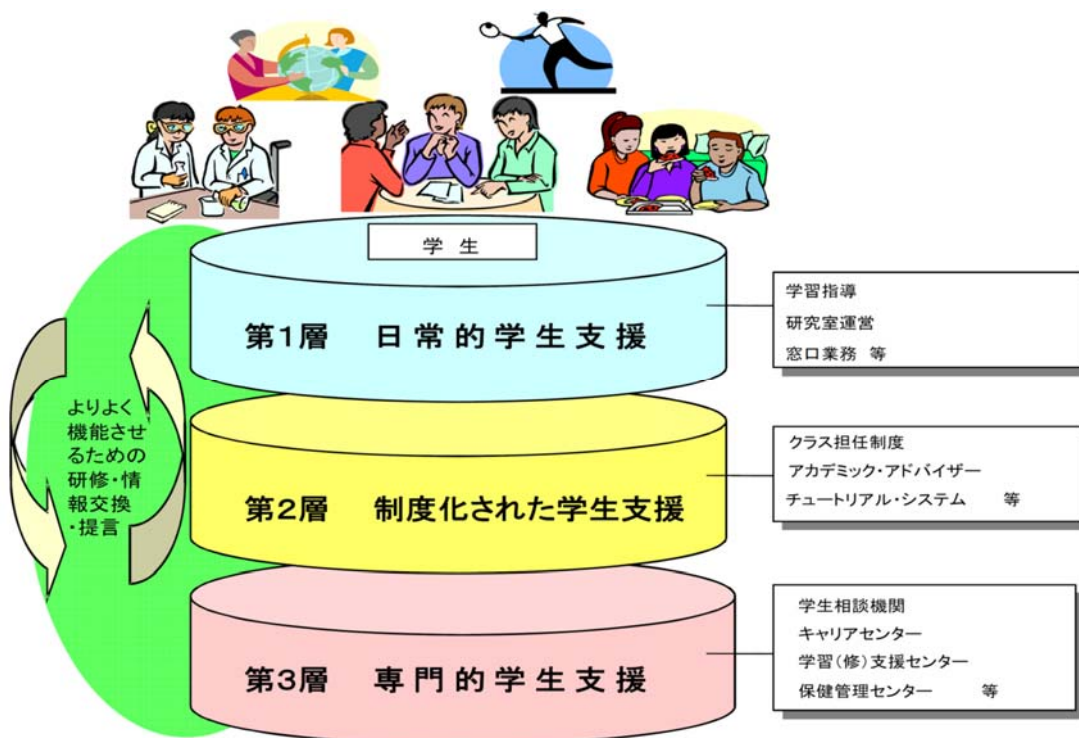
教職員は日常的に學生に接する中から、学習指導や研究室運営、窓口業務における助言等を通して、自然な形で學生の成長支援を行っている。また、學生同士の自発的な交流は適応上極めて重要であり、日常的學生支援に含むことができる。

〔制度化された學生支援（第2層）〕

次の階層では、制度化された學生支援として、「クラス担任制度」「アカデミック・アドバイザー」「チュートリアル・システム」「オフィス・アワー」「何でも相談窓口（員）」「就職相談」等の役割・機能を担った教職員による活動が挙げられる。また、學生の相互援助力を活かす「ピア・サポート」の試みも近年広まりつつある。

〔専門的學生支援（第3層）〕

2つの階層を越えてより困難な課題が生じた際に、「学生相談機関」「キャリアセンター」「学習（修）支援センター」「保健管理センター」等学内の専門的學生支援機関が支援を行う。問題の解決・改善の核となり、上記の2階層を支え、かつ学外機関と連携を行う際の拠点となる。なお、この学内の専門的學生支援機関は、すべての學生が必要に応じて利用可能な全学的な共通の基盤となる機関（以下「全学共通基盤」という。）として、教職員を配した組織であることが望まれる。



（日本学生支援機構 2007 大学における学生相談体制の充実方策について－「総合的な学生支援」と「専門的な学生相談」の「連携・協働」－）

2. 学生担任が行うことについて

茨城大学では、入学を希望する者に対して求める資質の「アドミッション・ポリシー」、卒業時までには伸ばし備える力の「ディプロマ・ポリシー」、その力をつけるための大学での学修や学生生活全般等に関する「教育及び学修に関するポリシー」の3つのポリシーを掲げ、この指針に沿って入学してきた者に対して卒業するまでの学修と成長を学生生活全般から支えることを保障している（エンロールメント・マネジメント、補足資料1）。そして、大学での学修と大学生活を支える主軸として学生担任制度を置いている。平成30年度より複数担任制度が整備され、各学部の状況に合わせた学生担任制度が運用されている。これら複数の学生担任が、必要に応じて引き継ぎ等を行い、学内外機関等と連携しながら、入学から卒業まで継続して学生を支援していく。

1) 全員面談の実施

学生担任による学生面談を、1年次生全員を前期、後期に1回ずつ年計2回、2年次生以降は年1回以上実施し、疑問や質問等に対応するとともに、成績不振や健康状態が不良な学生を把握し、適切な対応を行う。面談内容は「面談情報整理シート」（補足資料3-1）に簡潔に記録する。「面談情報整理シート」は担当の学生担任が保管し、「全員面談実施報告書」（補足資料3-2）を学科長等へ提出する。

2) 「大学入門ゼミ」の実施

学生担任は大学入門ゼミを担当し、茨城大学生として必要な学修、研究、学生生活等の実践法を教授するとともに、今後、担当学生が相談しやすい雰囲気作りを行う。

3) 授業の出席状況確認

1年次生においては、学務部より提供される基盤科目の出席状況を確認し、必要に応じて学生面談を実施する。また、2年次生以降については、以下5)にあるとおり「茨城大学の学士課程における成績不振等学生への対応方針について」（補足資料2-1）に基づき対応するが、明らかにメンタルヘルスを含む体調不良により出席状況が不良な学生に対しては、必要に応じて面談対応等を行う。

4) 単位修得状況の確認

各学部等で学期末ごとの単位修得基準を設定する。教務委員が単位修得基準をもとに成績を確認し、問題があれば学生担任に報告する。教務委員より報告を受けた学生担任は、学務グループ係等で改めて当該学生の成績の詳細を確認し、問題ありと判断された場合、当該学生と面談を行う。

5) 全学統一基準により抽出された成績不振学生等への対応

「茨城大学の学士課程における成績不振等学生への対応方針について」に基づき面談を行い、「個別指導等実施記録」（補足資料2-2）に記録し、「個別指導等実施報告書」（補足資料2-3）を学部長等へ提出する。

6) 学生からの相談対応

学生担任は、学生から相談要望があった場合は、できる限り時間を作り対応する。その際には、6.「問題発生時や相談時の対応について」をよく心得て対応する。学生から各種の学修上、生活上の悩みや相談が寄せられた場合、それらの原因が学生本人の抱える身体的・精神的な病気や障害に由来するものと推察される場合、必要に応じて、学生なんでも相談室等への相談を促すか、学生担任がなんでも相談室等に相談するなどして対応する。また、学生から合理的配慮の申し出があった場合、各学部障害学生修学支援員もしくはバリアフリー推進室へ相談し対応する。

7) メールによる情報送信

学生へのメールは、大学指定のメール（学籍番号@vc.ibaraki.ac.jp.）を使用する。

8) 研究室配属後について

研究室配属前後で担任業務の担当が変わる場合、教員間の引き継ぎはもとより、学生への周知をしっかりと行い、業務移行による学生支援の不備がないようにする。

9) 連絡不能学生への対応について

学生担任による面談等に関わる呼び出しに応じない学生については、以下の学生への連絡対応フロー図に基づき対応する。この結果、保証人等含め呼び出しにも応じないなど対応が困難な場合、保健管理センター、バリアフリー推進室等と相談の上、状況に応じて学生宅へ戸別訪問をする。

10) 学生担任による学生面談での基本姿勢

学生が主体的に問題を解決し、それによって学生が精神的、人間的に成長することが望まれる。これを行うためには、学生に寄り添い、視野を広げ、問題状況を整理し、情緒的に学生を支えながら解決方法を学生と一緒に模索していくことが大切である。重要なことは、学生のどのような相談でも、相談に当たった担任がひとりで抱えて解決しなければならないと考えることである。問題を早期に発見して必要に応じて各種相談機関につなぐことが重要である。これらを踏まえ以下の具体的な姿勢に留意し対応する。

・問題を学生と一緒によく把握する

十分に話を聴ける時間と場所を設定する。誰かが自分のために時間を割いてじっくり話を聞いてくれた体験、自分を受け入れてくれた体験は、その学生の不安を軽減し、その問題に前向きに取り組もうという姿勢を促す可能性がある。

・問題を明確化する

性急な問題に遭遇している学生は、混乱し、その状況を正確に客観的に捉えることができなくなっていることが少なくない。そこで、問題と状況を学生担任とともにもう一度ながめ、整理し、少し多面的に見ることができると、糸口が見つかる場合もある。学生が混乱している場合には、こちらが理解していることをなるべく時系列にそって系統立てて本人に伝えることが有効な場合が多い。

・情報を適切に伝える

学生の持ち込んでくる相談には、正確な情報を学生が有していないために混乱が生じていたり、あいまいな情報のために不安が大きくなっていることがあり、こちらが一度伝えた情報も正確に把握していない場合がある。そういった場合にも「それはもう分かっているはずであり、分からない場合は自分から聞きに来ない学生が悪いのだ」と考えるのではなく、学生の混乱している状況を踏まえ、適切に学生に届くような伝達を試みることが大切である。

- ・ 具体的、現実的にできる解決方法を伝える

問題の把握がある程度できたら、支援・助言をする。この場合には、なるべく現実的で、具体的な解決方法を助言する。そして、可能であれば唯一の解決方法ではなく、いくつかの解決手段を伝え、学生がその中から自分なりの解決策を選択していく方が望ましい。教員に自分の抱えている問題を解決してもらったのではなく、教員に相談して自分で解決法を見つけたと思える方が学生の人間的な成長につながることが多い。

- ・ 関係機関、利用できる資源につなぐ

相談内容によっては、なんでも相談室等、関係機関と連携を図ることが有効な場合がある。その場合、学生にただ紹介先を伝えるのではなく、しっかりとつながるように、学生の目の前で相手に電話をしてアポイントをとったり、仲介して直接引き合わせたりすることが必要な場合がある。学生担任が一人で全ての問題を解決・サポートしようとすることは難しいケースが多いので、周りとの連携が大切である。

- ・ 守秘義務について

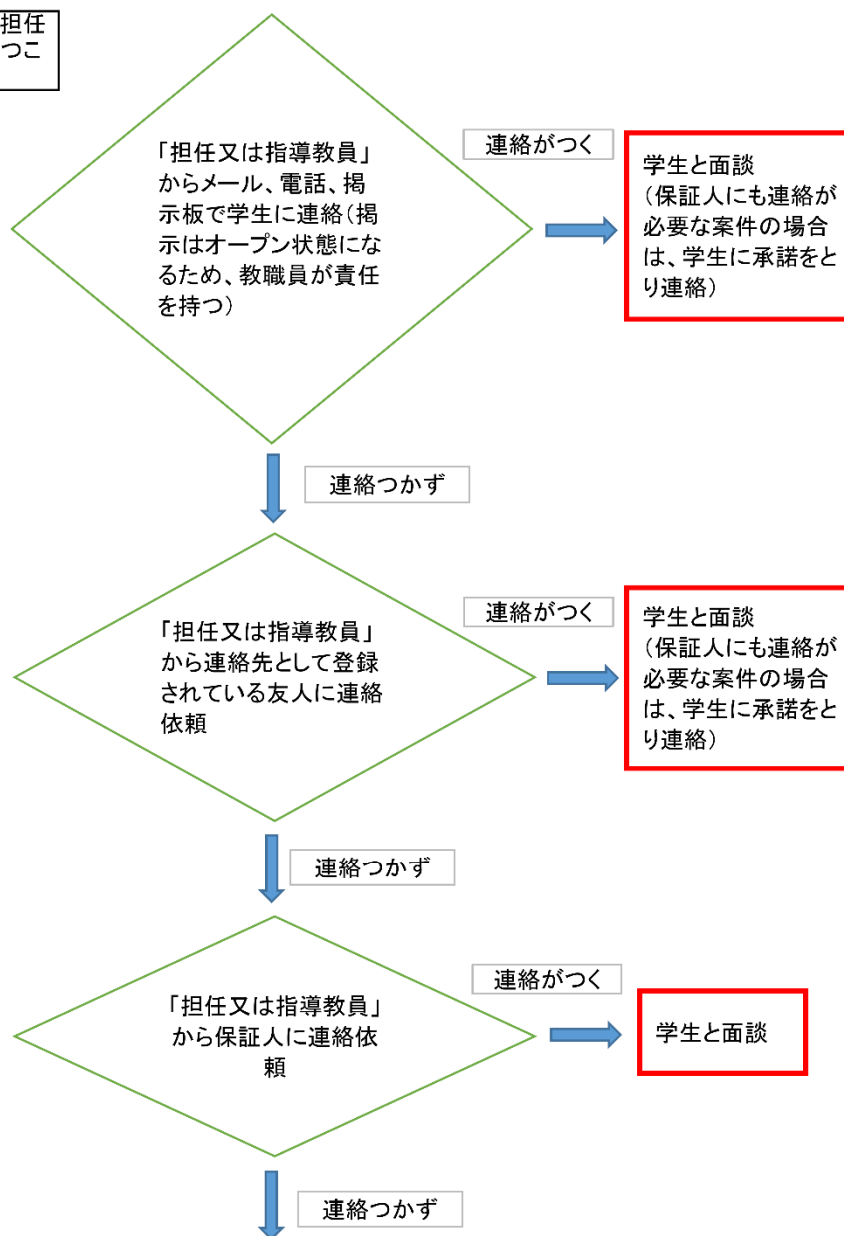
学生相談において知りえた学生のプライバシーを、十分に尊重する必要がある。

プライバシーが尊重されることで、担任と学生との間に安心感や信頼感が生まれ、効果的な相談関係が構築される効果も期待できる。もし、相談の内容によって家族や関係者に伝えなければならない場合、本人に伝えずに家族と連絡をとるのではなく、その必要性を本人に伝え、できるだけ了解をとることが望ましい。

パターン①

学生への連絡対応フロー図
 【履修確認や研究室からの連絡等通常行われる連絡の場合】

【全ての連絡については、担任
又は指導教員が責任を持つこ
ととする。】



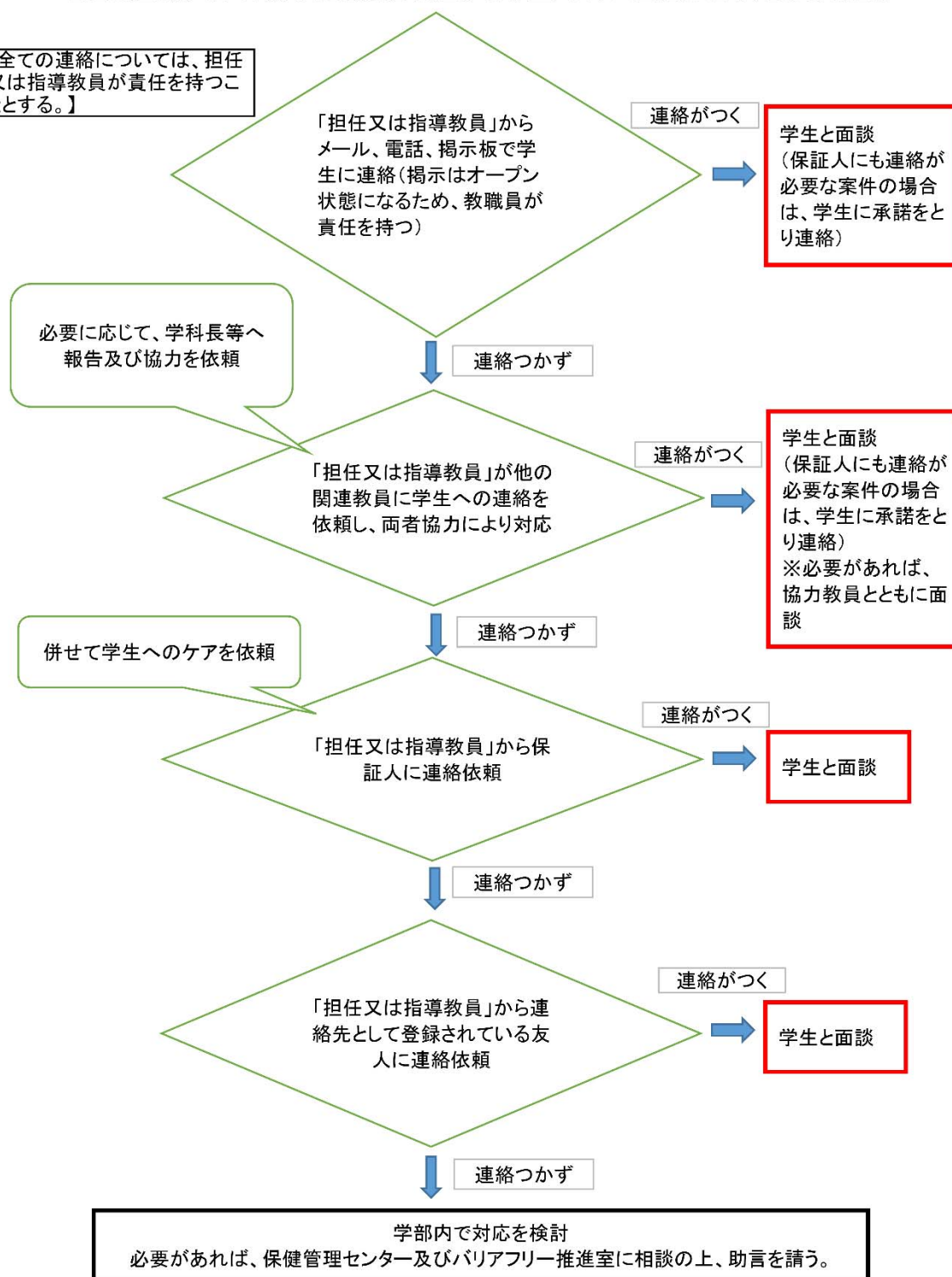
学部内で連絡不能学生を把握し、必要な対応を行う。
 必要があれば、保健管理センター及びバリアフリー推進室に相談の上、助言を請う。

パターン②

学生への連絡対応フロー図

【連絡困難又は特別な配慮を必要とする学生等特に注意が必要となる場合】

【全ての連絡については、担任又は指導教員が責任を持つこととする。】



3. 学科長等が行うことについて

1) 学生担任の推薦

- ・学科長等は各部局が定める規定に従い、学生担任の決定（推薦）を行う。
- ・教員の所属コース等や年齢が偏らないようにする等、バランスよい配置を心がける。
- ・学科会議等での各教員からの意見や提案も取り入れて推薦者を決定する。

2) 学生担任名簿の各教員への配布

各教員へ配布し、学生担任の役割および各教員が行うことについて、学生担任マニュアルを参考に説明する。

3) 学生担任名簿の学生への周知

新入生ガイダンス時等に学生担任名簿を学生へ配布し、各学生担任の紹介をする。

4) 学生担任による全員面談実施状況の管理

前記 2. 1) の全員面談の実施状況を管理し、学生担任より提出される「全員面談実施報告書」に基づき、必要な対応を検討する。

5) 問題発生時の対応

学生担任と学生との話し合いで問題が解決しない場合や、学科および学部で対応したほうがよいと思われる事例等については、学生の同意を得た上で、学科長等が学生に対応する。また、緊急事態等の場合には、必要に応じて一時的に学生担任を増員して対応する。

6) 学生担任が欠員となった場合

学生担任が退職等で欠員となった場合、学科長等は速やかに学生担任を補充するとともに、対象学生等に周知する。

7) 学生からの学生担任変更希望への対応

学生と適切に話し合い等を行い、必要に応じて学生担任の変更等を行う。

8) 学部教員等との情報共有

出席状況が著しく悪い、自傷他害の恐れがあるなどの学生がいる場合、必要に応じて学生担任等が学生から情報共有の許可をとった上で、学科長等は状況に応じて学部教員等と情報を共有し対応する。

4. 学生担任以外の各教員が行うことについて

1) 体調不良等の学生への対応

- ・メンタルヘルス等を含め体調不良が顕著な学生については、必要に応じて保健管理センターやなんでも相談室等に連絡するか、学生担任に連絡するなどの対応を行う。
- ・必要に応じて学科長等と連携するか、各学部内の会議等で情報共有等を行うなどして、当該学生の情報を共有する。
- ・長期間欠席が続くなどの場合で授業担当教員が学生に連絡できない場合は、学生担任に連絡して対応を依頼する。

- ・必要に応じて問題発生後の具体的対応法について検討し、決まった方策を行う。

5. 学務部等が行うことについて

- 1) 単位修得情報等の提供
- 2) 1年次生受講科目の出席状況の提供
- 3) 教務情報ポータルシステムでのデータ管理
- 4) その他、学生への緊急対応

6. 問題発生時や相談時の対応について

- 1) 呼び出しに応じない場合

上記2. 9) 連絡不能学生への対応について、に基づき対応する。

- 2) 学生からの突発的な相談について

学生からの相談に対しては真摯に対応する。メール等で相談日時を指定して、それを守り面談等を実施する。明らかに不調をきたしているように見える学生は、保健管理センターやなんでも相談室等につなぐ。また、面談をしても状況が改善しない等の場合は、精神的な不調に陥っている可能性もあるので、対応について学科内等で検討し、必要に応じてなんでも相談室等と連携する。その際、学生担任は関係機関と協働するなどし、引き続き出席状況等に注意を払う。面談対応した学生については、学期末、学期始まりなどの節目に様子を確認するよう心がける。

7. その他

- 1) 過年度学生等への対応

基本的に学生担任は継続して対応する（学生担任の退職などやむを得ない理由を除く）。学生担任がついておらず、かつ卒論指導等で研究室に配属されていない学生及び過年度生の取扱いについては、以下を参考に学科長等が判断し適切に対応する。

<対応策の例>

- ・学科長等が学生担任となる
- ・過年度生だけを対象とした学生担任を別枠で設ける
- ・〇年次生の学生担任が担任を兼ねる

8. 学生担任による学生相談の必要性

大学生は、以下のような理由から教員によるサポートが必要な年代と考えられている。

① 生活環境の変化

大学生になると、一人暮らしを始める学生も多くなり、これまでは、朝は家族に起こしてもらい、食事や洗濯もすべてやってもらっていた学生が、すべて自分でこなさなくてはいけなくなり、学修と日常生活のバランスをうまくとれない、生活リズム

ムが乱れてしまうといった生活面での問題を抱える学生も多い。また、地元を離れて本学にやってきた学生は、見知らぬ土地、これまでとは違う気候、風土に慣れるまでに時間のかかることがある。

② 学修環境の変化

大学は、それまでの学校とは違い学生自らが履修を選択し、登録しなければならない、授業が行われる教室も毎回違い、情報を伝えてくれるホームルームもないことが多い。その他、座席が指定されていないこと、評価方法が多様であること、自分の所属があいまいになることなど、学生の戸惑いを誘引する要素が多くある。その際、自分から教員にアプローチしたり、友達を作って情報を得る力がないと、孤立する可能性がある。

③ アイデンティティ確立の時期

大学時代は、それまでに獲得した自分を見直し、自分がどんな人間なのかを自問自答する時期といわれている。新しい自分を確立するためには自分の習慣などを変化させる必要がある場合があり、これは大きな不安を伴う作業であり、学生によっては大きな混乱が起きたり、なかなかこの状況から抜け出せない学生もいる。

④ 人生における大きな決断をしなければいけない時期

大学時代は、アイデンティティの確立に加え、自分の専門性の決定（研究テーマや卒業論文等）や職業選択という人生における大きな課題を決定しなければいけない時期であることが多い。

⑤ 精神疾患の好発期

一般的な大学生の年代は、統合失調症をはじめとしたさまざまな精神疾患が発症しやすい時期といわれている。精神疾患のある学生は、周囲との関係が希薄になり、孤立しがちな傾向がある。そうすると、なかなか周囲に気づかれず、治療開始が遅れてしまうことが多い。

以上のように、大学生の年代は様々な要因から不安定で、揺れ動きやすい時期と言える。しかし、指導が適切に行われるとそこから立ち直り、充実した学生生活を送れる学生も多く存在する。教員は、学生の主体的な選択や決断を尊重しつつも、必要な時には手を差し伸べたり、大人や職業人のモデルとして学生とかがかわることが重要な場合がある。そのためには、普段から学生の状況を把握し、支援が必要な状況かどうか見極めることが大切と考えられる。

9. よくある質問

Q1: どのように学生と面談をすればよいのですか？学生に何を聞けばいいのですか？

A1: 全員面談では「面談情報整理シート」、成績不振学生面談では「個別指導等実施記録」に基づき面談を実施し、その他、学生の疑問点や困っている点を尋ね、具体的な情

報提供ができる場合は情報提供をしてください。対応が難しいと感じた場合は、各学部担当部署もしくはなんでも相談室等に相談してください。

Q2: 対応が困難な事例等について、学生担任が相談する場所が、学科長等、なんでも相談室、保健管理センターなど複数あり分かりづらい。どこに相談すればよいか。

A2: 原則的には、まず所属部局等で相談の上、対応可能なものについては対応してください。学部での対応が困難なもの等、判断が難しい場合は、なんでも相談室か学生支援課にご連絡ください。なんでも相談室等が適切な部局等（保健管理センター、バリアフリー推進室等）へつなぐことも含め、その後の適切な対応等について助言します。

Q3: 学生宅を訪問しなければいけない状況になったときは、1人で行かなければなりませんか？

A3: 所属学部、各学部学務グループ等と相談してください。訪問が必要な場合は、原則2名以上で訪問するようにしてください。

10. 学生相談窓口一覧

◎ 保健管理センター

水戸	029-228-8082	日立	0294-38-5019	阿見	029-888-8528
----	--------------	----	--------------	----	--------------

◎ なんでも相談室

水戸	029-228-8595	日立	0294-38-5232	阿見	029-888-8691
----	--------------	----	--------------	----	--------------

◎ バリアフリー推進室

水戸	029-228-8499	日立	0294-38-5232	阿見	029-888-8691
----	--------------	----	--------------	----	--------------

◎ 学務部 学務課 共通教育グループ	029-228-8415
--------------------	--------------

◎ 学務部 学生支援課	029-228-8060
-------------	--------------

◎ 人文社会科学部学務グループ	029-228-8106
-----------------	--------------

◎ 教育学部学務グループ	029-228-8207
--------------	--------------

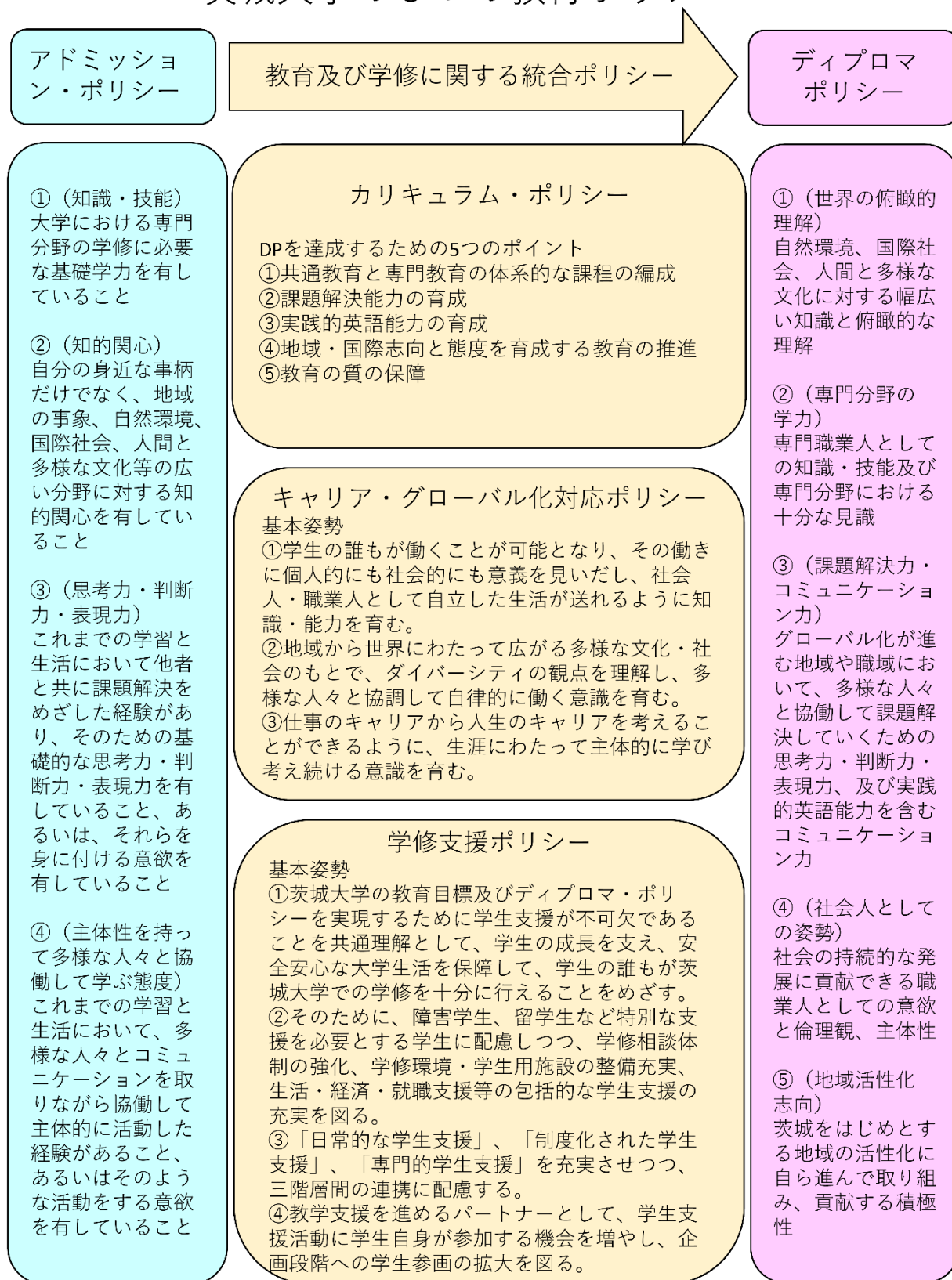
◎ 理学部学務グループ	029-228-8518
-------------	--------------

◎ 工学部学務グループ	0294-38-5011
-------------	--------------

◎ 農学部学務グループ	029-888-8519
-------------	--------------

<補足資料1>

茨城大学の3つの教育ポリシー（概要版）



茨城大学の学士課程における成績不振等の学生への対応方針について

(平成 28 年 2 月 19 日学長決定)

改正 平成 28 年 8 月 17 日規則第 118 号, 平成 29 年 3 月 21 日学長決定

平成 30 年 9 月 1 日学長決定

第 1 趣旨

この方針は、茨城大学が組織的に学士課程における学生の修学状況を把握し、所定の修業年限での卒業を担保するとともに、学生の学びへの意欲を喚起するための教育内容及び教育方法等の改善に取り組むため、成績不振等の学生に対応するにあたり、必要な事項を定める。

第 2 対象学生の要件

- 1 学期毎に次の各号のいずれかの要件に該当する学生(学士課程に在籍している者に限る。以下同じ。)を第 3 に規定する個別指導等の対象学生(以下「対象学生」という。)とする。
ただし、休学者は除く。
 - (1) 直前の学期 GPA 算出日における累積修得単位数が、在学学期数に 15 単位を乗じて算出される単位数未満の学生
 - (2) 直前の学期 GPA 算出日における通算 GPA が 1.20 以下の学生
 - (3) 直前の学期 GPA が 1.20 以下の学生
 - (4) 修業年限を超えている学生
 - (5) 前各号に掲げるもののほか、各学部が別に定める要件に該当する学生
- 2 前項第 5 号に規定する要件を定めた学部は、第 4 に規定する報告と合わせて、当該要件を副学長(教育統括)に報告する。

第 3 個別指導等

- 1 各学部は、対象学生に対して、学年始(当該年度入学者(3 年次編入学生を含む。))は、後学期)に面談を行う。
- 2 前項に規定する面談を対象学生と行うことができない場合は、身元保証人との面談又は当該対象学生若しくは身元保証人との電話、電子メールその他これに準ずる方法に代えることができる。
- 3 第 1 項の規定にかかわらず、対象学生となった理由が留学、編入学、internship off-campus program、教育課程編成上の理由等により、当該学部がやむを得ないものと認める場合は面談を要しない。
- 4 各学部は、第 1 項の面談結果を個別指導等実施記録(別紙様式第 1 号)に記録するものとする。
- 5 各学部は、対象学生に対して、学生の修学状況を把握し、個別に履修指導(履修計画の立案を含む)、学修相談及び補習等(以下「個別指導等」という。)の必要な措置を講じ、計画

的な修学及び修学状況の改善に努める。

- 6 各学部は、第1項及び第5項に規定する対応を継続的に実施するため、学部内における実施体制を整えるとともに、必要に応じて全学教育機構、保健管理センター、他学部等と連携協力を図る。
- 7 各学部は、必要に応じて、対象学生に対し、後学期始にも面談を行うものとする。

第4 副学長(教育統括)への報告

- 1 学部長は、第3に規定する個別指導等の結果を個別指導等実施報告書(別紙様式第2号)にとりまとめ、学年始実施分は5月末日、後学期実施分は11月末日までに副学長(教育統括)に報告する。
- 2 副学長(教育統括)は、各学部からの報告を教育改革推進委員会及び中央学生委員会に提示して情報共有を図るとともに、必要に応じて、教育及び学生支援体制等の整備充実を協議する。

第5 庶務

- 1 第2に規定する要件の可否を判定するための情報は、学務部学務課から各学部に学期毎に提供する。
- 2 各学部は、学務課から提供された情報及び個別指導等に関する情報の取扱いに注意し適切に管理する。

第6 改正

この方針の改正は、教育改革推進委員会及び中央学生委員会の審議を経て、学長が行う。

第7 雑則

この方針に定めるもののほか、対象学生への対応に係る実施体制等に関し必要な事項は、各学部が別に定める。

附 則

この方針は、平成28年4月1日から実施する。

附 則(平成28年8月17日規則第118号)

この規則は、平成28年8月17日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附 則(平成29年3月21日学長決定)

この方針は、平成29年4月1日から実施する。

附 則(平成30年9月1日学長決定)

この方針は、平成30年9月1日から実施する。

面談実施記録
成績不振等の主たる理由（複数選択可） ☐学修方法に問題あり ☐学修量不足 ☐基礎学力不足 ☐学修意欲減退 ☐進路再考 ☐疾病 ☐その他（ ） ☐連絡不能等により不明（下記に身元保証人等への連絡状況等を記載）
面談等の実施年月日： 年 月 日（ ） 内容（成績不振の具体的内容、指導内容等を記載）： （※面談等を複数回実施した場合は、実施年月日を分けて記載する。）
特記事項

<補足資料 2-3>

個別指導等実施報告書（_____学期）

（_____学部）

1. 面談等の担当者・期間※

※「担当者」は、学生担任や指導教員などの役職を記入する。
「期間」は、連絡を取れる対象学生等について面談等にかかった期間を記入する。

- ・ 担当者
- ・ 期間

2. 個別指導等の対象学生となる要件

- ☐ 全学の要件と同じ
- ☐ 全学の要件に加え、学部独自の要件を追加（具体的に記入）

3. 上記要件による対象学生数及び対象学生の状況等

対象学生数		人数	左記の内、方針第3第2項により面談不要と認めた者	対象学生の状況等（複合要因はそれぞれに算入）							連絡不能
				学修方法に問題あり	学修量不足※	基礎学力不足	意欲減退		疾病	その他	
							学修意欲減退	進路再考			
1年次											
2年次											
3年次											
4年次											
過年次											
合計											

※「学修意欲減退」「疾病」等の理由はなく、単に学修量が不足すると思われる者の人数を記入する。

4. その他（特記事項・課題・提案等）

＜補足資料 3-1＞

学生担任 面談情報整理シート

基礎情報	作成者	担任（ ）副担任（ ）その他（ ）
	面談日	年 月 日
	対象学生	
	学部	
	学科	
	学年	
	氏名	
	学籍番号	
学修	単位の取得状況	単位（内必修 単位）
	単位が不足している理由	
	難しさを感じ始めた時期	
	難しさを感じたきっかけ	
	難しいと感じる教科	
体調把握	現在の体調（直近2週間）	
	睡眠時間	
	疲労感	
社会的資源	交流している友人の有無	
	サークル活動	
	アルバイト	
	その他活動	
	実家か一人暮らしか	
	生活の乱れの有無	
悩み・質問	悩み	
	学生からの質問	
支援計画	面談頻度	次回 年 月 日 ヶ月に1回
	今回の判断と今後の対応	

＜補足資料 3-2＞

学生担任 全員面談実施報告書

学科・コース等

提出日時

年 月 日

学生担任等氏名

[illegible]

※1 面談を行なった場合は1、行わなかった場合は0を記入



2019 年度 前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）			日英区分 :日本語
公共社会			
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野	
KB8557-1Q	KB-GHS-121-COE	一般講義	
■ 担当教員（ローマ字表記）			
上地 勝 [Masaru UEJI], 西川 陽子, 矢嶋 敬紘			
■ 対象学生		■ 対象年次	
1年全学共通		1年次 ～ 4年次	
■ 開講曜日・時限	■ 単位数		■ シラバス用備考
集中	1		【1Q】

■ 授業題目/Title

多様性社会に関わるボランティア活動

■ 授業の概要/Course Overview

ボランティア活動を通じて様々な人々と交流することや地域社会に貢献することは、教室の中で授業を受けて得られる知識とは違った新たな知見や価値観の発見につながることでしょう。この授業では、学生が自ら探した受入先でボランティア活動に従事することが主たる内容となります。そして、ボランティア活動中の様子及びボランティア活動の報告内容が評価に値すると判断された学生に対して単位を付与します。

■ キーワード/Keyword(s)

ボランティア、NPO、非営利、地域貢献、社会貢献

■ 到達目標/Learning Objectives

1）ボランティア活動の社会的意義を理解できる。 2）ボランティア活動を通じて主体性・社会性・積極性・協調性およびコミュニケーション力を身につける。 3）ボランティア活動を通じて社会や地域に関心を持ち、新たな課題を発見できる。 4）社会や地域における自分の役割について意識できる。

■ 授業計画/Weekly Syllabus

1) 事前ガイダンス

ボランティア活動に対する単位の付与を希望する学生は、学期初めに開催する事前ガイダンスに参加すること。事前ガイダンスでは、単位付与までの手続き、ボランティア活動に参加にするに当たっての心構え、保険加入等について説明を行う。この事前ガイダンスに出席していない学生には授業としてのボランティア活動への参加を認めない。

2) ボランティア活動

自分で探したボランティア活動に合計30時間（1,800分）以上参加する。複数のボランティア活動の合計時間数が30時間（1,800分）以上であってもよい。

3) ボランティア活動実施報告書の提出

ボランティア活動終了後、ボランティア活動実施報告書（レポート）を作成し提出する。

予習・復習のポイント/Outside-of-Class

ボランティア活動参加前

- 1) ボランティア先を自分で探す(自発的)。このため自分で受入先の活動内容について十分に調べる。
- 2) ボランティア活動に参加する動機やボランティア活動中に意識的に取り組みたいことを明確にしておく。

ボランティア活動中

- 3) ボランティア先のスタッフの一員であることを常に意識する。
- 4) その日のボランティア活動終了後に毎回活動記録をつけることを勧める。
- 5) ボランティア活動中に失敗したことや注意されたことを内省し次の活動に生かす

履修上の注意/Notes

- 1) ボランティア先での不適切な服装・態度・言動、無断欠席、遅刻は厳に慎むこと。2) 必ずボランティア活動に関する保険に加入すること。3) 書類の提出期限を厳守すること。4) 基盤教育科目においてボランティア活動によって付与する単位の上限は1単位までとする。5) ボランティア活動中の他の授業や定期試験は欠席扱いとし補講・追試験等の特別措置はない。授業のない休業期間中に実施することを推奨する。

成績の評価方法/Grading

ボランティア活動実施報告書に基づき評価する。

教科書/Textbook(s)

備考	なし
----	----

参考書/Reference Book(s)

アクティブ・ラーニング型科目

■ ■ PBL科目

■ ■ 地域志向科目

○

■ ■ 使用言語

日本語のみ

■ ■ 身につけるべき能力（ディプロマ・ポリシーとの関係）

③課題解決能力・コミュニケーション力／④社会人としての姿勢／⑤地域活性化志向

■ ■ 実務経験のある教員による授業科目

■ ■ 実践的教育から構成される授業科目

■ ■ 学生用連絡先/Contact

教育学部D棟203号室

■ ■ 学生用メールアドレス/E-mail

masaru.ueji.he@vc.ibaraki.ac.jp

■ ■ オフィスアワー/Office Hours

木曜5時間目

■ ■ 面談可能時間/Interviewable time

オフィスアワーおよび相談によります。

■ ■ 授業時間/Class time



2018/11/07

2018 年度 山羊飼育活動企画における実施報告書

【趣旨・背景】

2018 年 7 月 28 日に行われた「茨城大学オープンキャンパス 2018（水戸キャンパス）」の企画の一つとして除草を目的に茨苑会館庭園にて山羊飼育を行う計画があり、飼育活動に参加希望の学生を募ったが時間的に準備が間に合わず実行されなかった。その後、企画への参加を希望していた教育学部学生から企画実行への要望があったため、教育学部の企画として実現できないか再検討することとなった。学校教育現場では、命の教育などを目的とした動物飼育を通した教育活動がある。飼育のしやすさから多くはウサギなどの小動物が用いられるが、茨城県内では少数ではあるが山羊などの大動物の飼育を行っているところもある。将来教員を目指す教育学部学生にとって、命の教育などの教育目標を達成するために動物を飼育する必要性や大動物を選択する意義などについて実際の飼育活動を通して一度深く考察することは非常に有意義であると考えられる。このことを飼育活動の趣旨として改めて示し、再度教育学部学生に対し水戸キャンパスの除草を目的とした山羊飼育活動企画への参加希望調査をしたところ約 10 名の希望者があり、実施可能と考え企画を実施することとした。

【企画概要】

飼育期間	2018 年 10 月 14 日（日）～2018 年 10 月 26 日（金）
飼育山羊	2 頭（7 歳メス、3 歳メス（茨城大学 農学部より）、鳴き声の心配があったため子山羊ではなく力は強いが親山羊とした）
飼育場所	繁牧（除草）場所は茨苑会館庭園、寝床は教育学部 BC 棟間の旧喫煙所の建物を利用（鳴き声が近隣迷惑とならないよう配慮）
参加学生	10 名（教育学部学生（家庭選修 4 名、教育実践コース 1 名、人間環境教育コース 4 名、養護教諭養成 1 名））
協力教職員	教育学部（阿部信一郎、藤井とし子）、全学教育機構（西川陽子）、COC+（安江健、稲葉梨恵）
企画	（主催）教育学部、（後援）全学教育機構、COC+

【実施内容】

2018/09/26(水) 12:00～13:00	◎企画参加登録をした学生への事前説明会 場所：教育学部 B 棟 B203 室 講師：安江健	資料 1
2018/10/04(木)	◎近隣住民へのあいさつ 訪問者：西川陽子、小川徹（教育学部事務長）	資料 2

2018/10/14(日) ～ 2018/10/26(金)	◎飼育活動内容 10/14 (日) は山羊サミットで大学に来ていた山羊 2 頭を寝床となる教育学部 BC 棟間と繁牧場所の茨苑会館庭園に移動させ慣らし飼育をすると同時に、寝床場所の風よけや飼育道具などの設置を行った。 10/15(月)より通常飼育開始。 通常飼育作業（当番：2 or 3 人/日、10/15(月)～10/26(金)） 8:00～ 寝床から繁牧場所への移動。寝床の掃除。健康状態確認。 日中 様子確認（ロープの絡まりがないか、健康状態に異常がないか、犬などが来ていないかなど） 17:00 前後 繁牧場所から寝床へ移動。健康状態確認。（当番学生の授業時間により時間の前後アリ） 10/26(金) 昼前後に引き上げ作業。（飼育活動参加学生、協力教員総出。寝床の風よけ撤去や掃除、繁牧場所のペグや看板（手の消毒、角に注意など）の撤去など。）	
2018/10/29(月) 12:00～13:00	◎飼育活動後の意見交換会 場所：教育学部 B 棟 B207 室 以下の 3 つの観点をはじめ、学生同士で自由に感想や改善点などについて話した。 Q1.山羊飼育活動は自身にとって有意義だったか Q2.来年度以降の同活動の継続についてどのように思うか Q3.改善すべき点などはあるか 終了後、自身の感想意見をまとめ、提出することとした（資料 3、活動参加学生 10 名中 8 名提出、提出のなかった 2 名はあまり活動に参加できなかった者）。	資料 3

【企画の成果と今後について】

活動期間中の学生の様子や意見交換会で出された意見感想及び提出された意見感想文から考察する。

飼育活動に参加した学生全員が、今回の活動に参加して有意義だったと回答していた。企画の目的である「自身が教育現場に立った時の今回の経験の有用性」については、活動参加学生のうち教員志望の学生は全員実感できたことから企画目的は達成できたと考えられる。また、活動参加学生のうち教員志望ではない学生や活動参加学生の友人で教員志望ではない他学部の学生からの意見として、

教育現場への還元ということに限らず生き物との共生という観点から大学生になってこのような経験をする
ことについて有意義に感じる者も少なくなく、参加学生を教育学部に絞らないほうがよいとの意見も多かった。
これらのことから、今後本企画を継続する意義はあると思われるが、その場合趣旨等について再検討する
余地があると思われる。

参加学生の反応は一律に良いものであり各人それぞれの観点から得るものがあったようだが、課題もい
くつか指摘された。中でも活動参加学生全員が指摘したのは、互いの連絡のやり取りや担当業務の確
認における曖昧さとその危険さであった。近年、学生間の連絡は LINE などて掲示をし、それを各人自由
に読む形が一般化しており、連絡したことが相手に正確に伝わっているか、必要な仕事を誰が主体となっ
て担うかなど直接連絡をとり確認することはせず、曖昧に済ませなんとなく事が進むことに慣れている。人との
ストレスを軽減する観点からはよいかもしれないが、グループで何か事を成し遂げる上では問題がある。
今回の活動では学生らのこのウィークポイントが当番日に穴を空けても誰も対処できないといった問題とし
て表面化し、学生が自身の欠点に気づききっかけになった。もう少し長い企画であれば、学生らで話し合
い対応策を講じるなどの学修の機会になったが、今回は活動が 2 週間と短く生き物相手ということもあり
待たなしであったため教職員でカバーしてしまい課題を残す結果となった。これについては、現在の大学
生にとって非常に重要な学修テーマであり、飼育活動の継続価値がこのようなところにもあるのではないかと
思われる。

目的としていた以上の成果としては、学内学生や教職員の楽しみや癒しになりかなり学内において評
判よく受け入れられたこと、更に、大学近隣をはじめとする学外の方も山羊を目当てに大学を訪れる姿が
見られ、そのような方々の反応が非常によかったことが挙げられる。当初鳴き声やにおいなどで近隣から苦
情があることを心配したがそのようなことは全くなく、非常に好意的に本企画は受け入れられた。小さなお
子さん連れで来られていたお母さんは「普段なかなか大きな動物を見る機会はなく、身近にゆっくり楽しめ
て嬉しい。大学生が子どもにとっても優しく接してくれ子どもとても喜んで何度か来ている。大学生とも話が
できて嬉しい。」とおっしゃっておられ、他には懐かしいと訪れる高齢の方などもおり、学外の方が大学を身
近に感じる機会としても本企画が機能したように思われる。飼育活動に参加した学生も、学内外の方
々のこのような反応を自分たちの活動の成果として受け入れ、非常に嬉しく思ったといった感想が多か
った。

以上が企画実行の成果等に関する主な点である。飼育活動参加学生の意見感想については資料
3 にその詳細があるので参考にしていただきたい。また、今回教育学部、全学教育機構、COC+と複数の
部局の協力により実行がなかったことは大学としてとても良いことだと思われる。次年度以降の本活動
企画の継続については、小中校の教育現場に生かすためというのではなく大学生の成長に必要な学修
の機会として位置づけ対象学生を広げるか否かといったことや、その場合の主体となる担当部局、協力
体制をどのようにするかなど、今回の実施結果をもとに再考する必要があると思われる。

【活動記録写真】



寝床(教育学部 BC 棟間)



除草作業中(茨苑会館庭園)



学生と山羊の触れ合い



学生と山羊の触れ合い



学生と山羊の触れ合い



飼育活動参加者集合写真
(飼育 1 週間経過、慣れてきたところ)



最終日引き上げ作業



最終日引き上げ作業(見送り)

水戸キャンパスでのヤギ飼育に必要な要件

【学内外の調整】（短期間の除草用であれば①は不要）

- ① 家畜保健所への飼育申請
- ② 大学&茨苑会館食堂への許可申請
- ③ 近隣への事前相談（発声や臭いに対する苦情防止のため）

【必要な施設・装備】

- ① 夜間や雨天時に収納できるスペース（雨風がしのげれば OK）＋すのこ
- ② 繋牧するための道具（より戻しロープや鎖、水槽）
- ③ 防疫のための看板、踏み込み槽、手指消毒薬の設置
- ④ 繋牧飼育の趣旨説明および触れ合う際の諸注意の看板（＋緊急時連絡先）

実際に行う
飼育作業概要

【必要な飼育管理】

ヤギは「除草機」の代わりではありませんので、当然ながら日曜祝日に関係なく以下の飼育管理は毎日必要です。

- ① 小屋からヤギを連れ出てその日の除草場所（繋牧場所）に繋牧する（お互いに絡まない位置に）
 - ② 日陰が無い場合には日陰を設置してやる
 - ③ あとは夕方まで放置（途中で何回か様子見る）
 - ④ 繋牧に出ている間に小屋内を掃除（糞捨て場を決めておく）
 - ⑤ 日没前には小屋に連れ帰る
 - ⑥ 報酬としてトウモロコシを一つまみ給与
 - ⑦ 小屋内では自由飲水
 - ⑧ 次の日の繋牧予定地にペグを移設
- ⑧ は①の前でも OK です。

お疲れ様でした！

これら毎日の管理に加えて、定期的に削蹄や予防注射が必要ですが、それは農学部山羊貸出し担当教員で実施します。

ツツジ科の木本は有毒ですので、ツツジの生垣付近での繋牧は厳禁です

2018 年 10 月

茨城大学近隣にお住まいの皆様

将来小中学校の教員となる教育学部学生の除草を兼ねた山羊の飼育活動について

茨城大学教育学部長

荒 川 智

日ごろから大学の行事に関しましてはご理解をいただき誠にありがとうございます。

現在、除草を目的とした山羊の飼育活動を教育学部学生が中心となり下記のとおり実施することを計画しております。除草が目的ではありますが、活動の中心となる学生らは将来小中学校の教員になる学生たちであり大学教育の一環としてこの活動をとらえています。小中学校の教育では生き物の飼育を通した命の学習があり、動物の飼育活動には少なからず携わります。小中学校では小動物が主で山羊のような大動物を扱うことは稀ですが、大きいものほど生き物との共生の難しさが学べ、将来教える側としてどのようなことを子どもに伝えるべきか考える貴重な体験の機会になると考えています。

以上のようなこの活動における趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。なお、活動期間中に何かお気づきの点などがございましたら、お手数ですが下記担当までご連絡くださいますようお願いいたします。

記

日時 2018 年 10 月 14 日（日）～2018 年 10 月 26 日（金）

場所 裏面図のとおり

内容 将来小中学校の教員となる教育学部学生の除草を兼ねた山羊（2 頭）の飼育活動

連絡先（平日）

国立大学法人 茨城大学教育学部

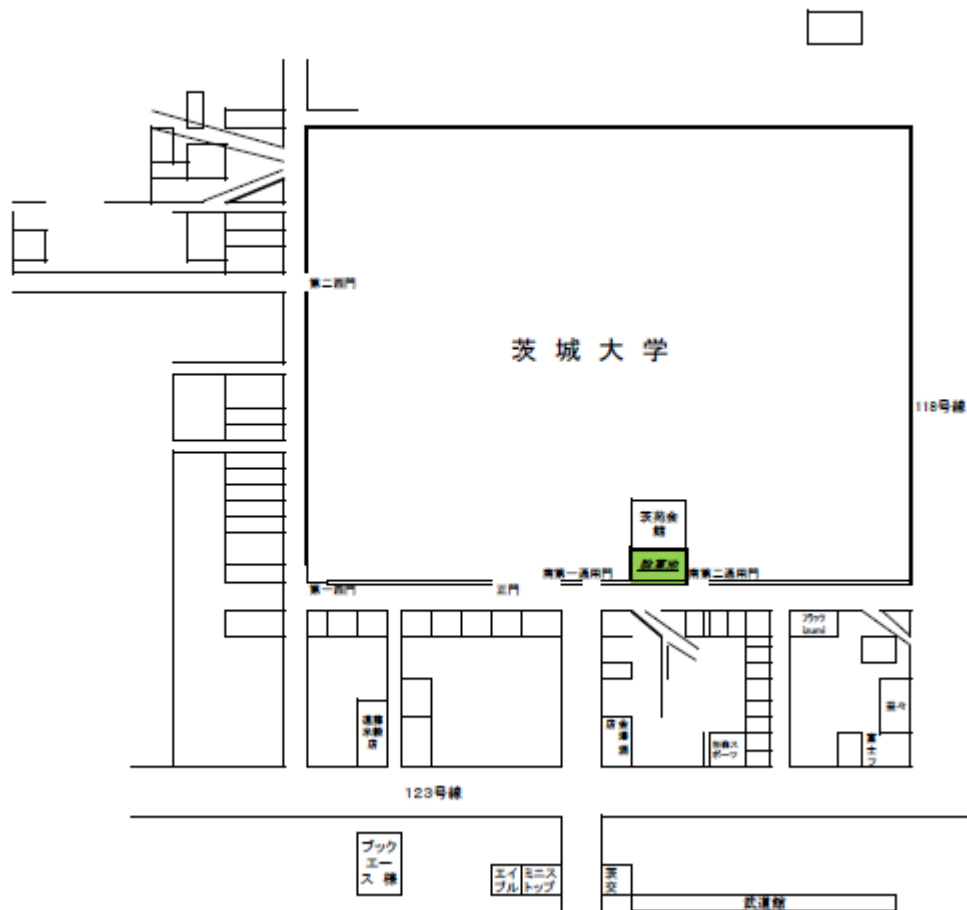
学務グループ 松岡

TEL : 029-228-8204

連絡先（土日夜間）

教育学部 西川

TEL : 〇〇〇—〇〇〇〇—〇〇〇〇



2018 年度 後期 山羊飼育活動に参加後のアンケート調査

所属・学年 人間環境教育コース・4 年

Q1. 山羊飼育活動はあなたにとって有意義でしたか。

【○ 有意義だった・ 有意義ではなかった】

上記回答の理由について、有意義だった人はどこが有意義だったか、そうでなかった人は参加意図とのズレなど、有意義でなかった要因について自由に書いてください。

- ・ 山羊に関して生態や飼育方法について学べたこと。
- ・ 責任感や生き物を大切にする心が養われたこと。

Q2. 来年度以降も継続したほうがよいと思いますか。また、もし継続するとした場合に、友人や後輩など、周囲の人たちに活動参加を勧めますか。

継続について ⇒ 【○ したほうが良い・ しないほうが良い・ その他】

周囲の人に活動参加を勧めるか ⇒ 【○ 勧める・ 勧めない・ その他】

上記回答を選択した理由について、自由に書いてください。

- ・ 山羊に興味を持つ人が多くいたので、そのような人たちにもと興味関心を高めて欲しい。
- ・ 地域の人との関わり強化につながる。

Q3. もっとこのようにであったらなど、今回の活動に対する改善要望やアイディアなどがありますか。

【○ ある・ ない・ その他】

上記回答であるを選択された人は、その内容をお書きください。

かなり早くに草がなくなってしまったので、もっといろいろなところに移動させてあげたほうがよかった。

⇒裏面に続く

今回の活動に参加した感想や意見を 400 字以内でお書きください。

（山羊であることの有用性についても、あればお書きください。今後の継続を考える材料にしたいと思います。）

今回の山羊飼育活動を通して、学校で生き物を飼育する意義と大学生の生活にハリを与えることを身をもって学ぶことができました。

ただ生き物を可愛がるだけでは学ぶことができない責任感やチームワークなどのスキルを学ぶことができる山羊をはじめとする家畜等の飼育は子どもに必要な経験だと実感しました。私は来年度から中学校教諭として中学生と関わりを持ちます。その際、家畜まではいかなくとも生き物の飼育を通して、責任感やチームワークを養わせたいです。

一方、今回のような経験は大学生にとっても必要なことだと思います。乱れた生活習慣が正されたり、責任感を持って生活したりと、よい影響を与えますし、自身の興味関心を高めることもできます。山羊飼育は生き物が好きな人にはより詳しく学ぶことができ、生き物が苦手な人にも生き物に興味を持ったり、関わったりするキッカケになると思います。小・中学校の教師を目指す人はもちろん、多くの学部生にこの活動を知ってもらい体験してほしいと思います。

2018 年度 後期 山羊飼育活動に参加後のアンケート調査

所属・学年 家政教育・1 年

Q1. 山羊飼育活動はあなたにとって有意義でしたか。

【☐ 有意義だった・ ☐ 有意義ではなかった】

上記回答の理由について、有意義だった人はどこが有意義だったか、そうでなかった人は参加意図とのズレなど、有意義でなかった要因について自由に書いてください。

自分とはこれまで全く接点のなかった先輩や教職員とコミュニケーションをとらなければいけない場面が多くあって、それが難しかったです。

しかし、今回この経験をしたおかげで自分から積極的にうごかなければ何もはじまらないことをまなぶことができました。

Q2. 来年度以降も継続したほうがよいと思いますか。また、もし継続するとした場合に、友人や後輩など、周囲の人たちに活動参加を勧めますか。

継続について ⇒ 【☐ したほうが良い・ ☐ しないほうが良い・ その他】

周囲の人に活動参加を勧めるか ⇒ 【☐ 勧める・ ☐ 勧めない・ その他】

上記回答を選択した理由について、自由に書いてください。

責任感を感じられるようになるので参加は良い経験になると思いました。

山羊さんのおかげで癒されもしますので。

Q3. もっとこのようあったらなど、今回の活動に対する改善要望やアイデアなどがありますか。

【 ☐ ある・☐ ない・ その他】

上記回答であるを選択された人は、その内容をお書きください。

⇒裏面に続く

今回の活動に参加した感想や意見を 400 字以内でお書きください。

（山羊であることの有用性についても、あればお書きください。今後の継続を考える材料にしたいと思います。）

今回山羊の飼育活動に参加してたくさんのことを学ぶことができました。

1 つめは初対面の人とコミュニケーションを取ることの大切さです。進んで山羊の飼育活動に参加した先輩と 2 週間の担当を決めるとき、年長の先輩方が相手だったこともあり「じゃあこの日私たちでやります」と言うのにも遠慮していました。しかしそれでは話が進まなく、先輩方が「結構時間があるからいつでもいいよ」とおっしゃっていただいたことで、スムーズに話し合いを終えることができました。

2 つめは、シフトをきちんと話し合うことの大切さです。今回は先生方が朝来てくださることが多くて油断をし、2 日ほど生徒の人手が足りない日がありました。忘れてしまったものは仕方がないのですが、やはり生き物相手なので忘れたでは通用しません。気が緩んで来ると忘れがちになるため、もし今後このような機会があったら「出られなくなった」などの修正点なども含めて、きちんと表にまとめることが必要だと思いました。また、反省会で出たグループで週担当にするという意見に私はとても賛成です。1 日 2 人のギリギリの担当しか置かないと、万が一の場合にだれも対応できない事態になります。そのため、グループ担当は良いアイデアだと思いました。

3 つめは大きな動物はもちろん、小さな動物だとしても油断しないことです。私は実家で犬を飼っていて、そこまで大きな犬種ではないものの引っ張る力や顎の力は驚くほど強いです。山羊は犬よりも圧倒的に大きいのでもっと力が強いだろうと思い、山羊の近くでは出来る限り油断せずにいようと考えていました。実際リードを引っ張る力がとても強くて、1 人だったら怖いなと感じました。このことからグループでの週担当は良いと思います。

4 つめは、人工ではなく自然の力を借りて何かをするのは素晴らしいということです。山羊が草を食べてくれるので私たちは草刈り機で草刈りをしなくてもよくなり、山羊は食料を得ることができます。そして山羊の糞は土に還り、土は肥えます。山羊の気持ちはどうか分かりませんが、人間としては本当にありがたいことです。こうして協力してくれた山羊に感謝しています。

以上の 4 つのことを私は山羊の飼育活動を通して学ぶことができました。飼育活動に参加していない人でも癒しなど何かしら得られたと思うので、来年以降も可能ならば是非やっていただきたいです。そのときはまた飼育したいです。

2018 年度 後期 山羊飼育活動に参加後のアンケート調査

所属・学年 家政教育・1 年

Q1. 山羊飼育活動はあなたにとって有意義でしたか。

【○ 有意義だった・ 有意義ではなかった】

上記回答の理由について、有意義だった人はどこが有意義だったか、そうでなかった人は参加意図とのズレなど、有意義でなかった要因について自由に書いてください。

最近山羊さんに限らず動物と触れ合う機会が減り動物を飼育することの大変さを改めて痛感しました。この経験は今後教員となり学校の動物と子供たちの触れ合いを行う際にとっても役立つと思いました。デコちゃんとキャサリンがおりこうさんだから問題なく出来たのかもしれませんが、もし学校に山羊さんがいても正しいお世話の仕方を教えていただけたので落ち着いて行動できると思いました。

Q2. 来年度以降も継続したほうがよいと思いますか。また、もし継続するとした場合に、友人や後輩など、周囲の人たちに活動参加を勧めますか。

継続について ⇒ 【○ したほうが良い・ しないほうが良い・ その他】

周囲の人に活動参加を勧めるか ⇒ 【 勧める・ 勧めない・ ○ その他】

上記回答を選択した理由について、自由に書いてください。

山羊さんに関わらず動物たちと触れ合うことで学ぶことは少なからずあることが今回の活動に参加して分かりました。飼育活動には参加していない大学生、ご近所のお年寄りや子供たちなどが可愛いねと見に来てくれ、茨城大学の憩いの場としての機能及び可能性が感じられました。

周囲への活動参加への勧めをその他にした理由は、やりたいと考えている人にはどんどん勧めたいと思いますが、命を預かる以上中途半端に考えている人にはやってほしくありません。また、動物が苦手な人やもしくは嫌いな人は、動物たちも気持ちを感じ取る能力があると思っていますのでお互いに気持ちよく過ごせるように無理にお勧めしません。ただ、この活動は本当に有意義な時間を過ごせることはみんなに知ってほしいです。

Q3. もっとこのようにであったらなど、今回の活動に対する改善要望やアイデアなどがありますか。

【○ ある・ ない・ その他】

上記回答であるを選択された人は、その内容をお書きください。

もっとシフト管理を徹底しておくべきだったと思いました。

⇒裏面に続く

今回の活動に参加した感想や意見を 400 字以内でお書きください。

（山羊であることの有用性についても、あればお書きください。今後の継続を考える材料にしたいと思います。）

本当に楽しい2週間でした。正直なところ私は大きな動物が得意ではありませんでしたがデコちゃんとキャサリンのおかげで2頭くらいの大きさまでは好きになれたような気がします。

最初は「こんなに力が強いのか!」と驚きが隠せず2週間やっていたか心配でしたが今は2頭とお別れしてからすごく寂しいくらいです。また、デコちゃんとキャサリンにはたくさん学ばせてもらいました。先生方がなぜ山羊を茨城大学に連れてきたのかを考えてとおっしゃっていたので、私は学校での動物飼育について考えてみました。

文部科学省が発表している「学校における望ましい動物飼育のあり方」を見たところ動物（命あるもの）との触れ合いは自然の偉大さ、命の大切さ、豊かな感情、好奇心、思考力などを養うことができると記載されていました。しかし、近年では正しい飼い方を知らないまま生き物を飼っていることが問題視されているようです。教育者が飼い方を知らないのは子供たちのためにも動物のためにもよくないなと思いました。また、知らないままに育てしまった子供は親になった時自分の子供に動物との触れ合いを通して育つ命の仕組みや自然とのかかわり方を学ばせる“学ばせ方”が分からない親になってしまうことも懸念されています。

このような負の連鎖が起こらないように、子供たちにしっかり学ばせることができるようにこのような機会を通してたくさんの動物と触れ合いたくさん経験したいと思いました。

2018 年度 後期 山羊飼育活動に参加後のアンケート調査

所属・学年 教育実践科学コース・1 年

Q1. 山羊飼育活動はあなたにとって有意義でしたか。

【○ 有意義だった・ 有意義ではなかった】

上記回答の理由について、有意義だった人はどこが有意義だったか、そうでなかった人は参加意図とのズレなど、有意義でなかった要因について自由に書いてください。

Q2. 来年度以降も継続したほうがよいと思いますか。また、もし継続するとした場合に、友人や後輩など、周囲の人たちに活動参加を勧めますか。

継続について ⇒ 【○ したほうが良い・ しないほうが良い・ その他】

周囲の人に活動参加を勧めるか ⇒ 【○ 勧める・ 勧めない・ その他】

上記回答を選択した理由について、自由に書いてください。

継続したほうがいいが、シフトを計画通りに行い、共有することが大切。

そして、自分の仕事は責任を持ってやらなければいけないと思った。

特に時間を守ることはこれから社会に出ていく上で必要になることなので、この山羊飼育を通して感じるくとかができた。

周囲の人に勧めるかについては、活動参加を勧める。山羊は気性も穏やかなので。

Q3. もっとこのようにであったらなど、今回の活動に対する改善要望やアイディアなどがありますか。

【○ ある・ ない・ その他】

上記回答であるを選択された人は、その内容をお書きください。

⇒裏面に続く

今回の活動に参加した感想や意見を 400 字以内でお書きください。

（山羊であることの有用性についても、あればお書きください。今後の継続を考える材料にしたいと思います。）

【山羊 飼育 を学校現場 学校現場 学校現場 で行う意義 について】

山羊を飼うことによって …

- ・ペットを飼えない子供も気軽に生き物に触れ合うことが出来る。
- ・命の大切さを学ぶことが出来る。
- ・子供たち自身が飼育することで責任感を持つことが出来る。
- ・地域の人たちも学校に訪れやすくなり、学校と地域を繋げる一手になる。
- ・除草作業をしてもらえる。（草刈り機を使用すると電気代やオイル代がかかる。）
- ・乳しぼりを経験でき、そこからチーズ等に加工できるなど食育について学べる。
- ・学校内でも山羊に興味を持ってやって来る人が多くいるため憩いの場になると思う。

【山羊を学校現場に導入するためには】

- ・子ヤギがいいと思う。（小学校だったら）
- ・角で子供たちを傷つけてしまう恐れがあるため、除角をしたほうがいい。（小学校）
- ・教員全員で飼育する。（休日や長期休暇等の時も飼育小屋掃除や餌やりなどをしなくてはならない。これらの理解を仰ぐ必要がある。）
- ・保護者からの理解が大いに必要。（保護者の方にも触れあってもらい、山羊の魅力をアピールするのがいいかも。）
- ・獣医師（なるべく近所）や安江先生とのネットワークをしっかりと作る。

【山羊飼育大変だったこと】

- ・午前8時に山羊さんを移動させること。（朝が早くて時間に間に合間に合わなくて先生に頼りすぎていた部分が多かった。）
- ・引っ張る力が強い。
- ・飼育係間での情報伝達が甘かった。（欠員多発。生き物相手という意識が低かった。）

【山羊飼育をしての感想】

動物嫌いを克服しようと思って、今回の山羊飼育に参加した。最初はやはり怖くて近づくことさえできなかったが、勇気を出して近づいてみたら山羊は全く攻撃してこなかったのでとても安心した。山羊と関わった約2週間で、ほぼゼロであった山羊知識が10くらいに増え、山羊への親しみを抱くようになった。

山羊の移動は思うようにいかない日が多かった。2週間では短かったのか。連れて行き方が悪かったのか。いずれにせよ、山羊の気持ちを人間がもう少し理解してあげるべきだと思った。次の実施が決まったらインターネットを使ったり、安江先生に聞いたりして山羊の生態や食べてはいけない植物についてもっと勉強しようと思う。

私は学校現場に山羊を導入すべきだと思う。だが、常時いるとなると草不足や、糞掃除が大変などの意見も出てくるだろう。だがその苦労よりも得られるものの方が大きいと思う。山羊の飼育歴が長い古河第一小学校さんや山羊のスペシャリストである安江先生にアドバイスをもらいながら飼育を行うべきだ。環境問題が深刻になりつつある中、少し時代を遡って山羊で除草作業をすることから様々なことが学べるだろう。

2018 年度 後期 山羊飼育活動に参加後アンケート調査

所属・学年 養護教諭養成課程・1 年

Q1. 山羊飼育活動はあなたにとって有意義でしたか。

【○ 有意義だった・有意義ではなかった】

上記回答の理由について、有意義だった人はどこが有意義だったか、そうでなかった人は参加意図とのズレなど、有意義でなかった要因について自由に書いてください。

とても有意義な活動だった。

毎日の観察・当番の日のやぎの移動等を通して、もともと動物が大好きでしたが、大学に入学してからはかなわないと思っていた動物とのふれあい活動が実現できたため。

Q2. 来年度以降も継続したほうがよいと思いますか。また、もし継続するとした場合に、友人や後輩など、周囲の人たちに活動参加を勧めますか。

継続について ⇒ 【○ したほうが良い・ しないほうが良い・ その他】

周囲の人に活動参加を勧めるか ⇒ 【○ 勧める・ 勧めない・ その他】

上記回答を選択した理由について、自由に書いてください。

動物が好きな人にとっては、大学構内で動物と触れ合える貴重な機会となるため、継続できるならするのがいいと思う。

動物が好きな友人や後輩に活動のことを話して勧めたい。

Q3. もっとこのようにであったらなど、今回の活動に対する改善要望やアイデアなどがありますか。

【○ ある・ ない・ その他】

上記回答であるを選択された人は、その内容をお書きください。

活動開始の際の連絡は、今回は学科の先生からのメール送信だったが、もっと大々的に宣伝したほうが多くの人に参加を希望できてよかったと思う。（例えば、学内の掲示板に掲示したり、各サークルに内容把握をしてもらう等）

また、今回は意図があって教育学部のみでの募集だったと思うが、他学部でも興味のある人なら参加できるようにするとさらに良いと思う。

⇒裏面に続く

今回の活動に参加した感想や意見を 400 字以内でお書きください。

（山羊であることの有用性についても、あればお書きください。今後の継続を考える材料にしたいと思います。）

全体を通して有意義な活動だった。

想像していたよりやぎの力が強く、移動の際大変ではあったが、キャンパスにやぎがいる間は、やぎの様子を見たり、小屋のまわりを掃除したりするのが学校へ行く際の楽しみであり励みだったので、アニマルセラピーのような効果があったかもしれないと思う。もともと動物が好きで、実家で沢山の動物を飼っていたため、進学を機に動物と触れ合うことができない生活になることが悲しかったが、今回の活動に参加することでまた動物と触れ合う機会を得ることができ、とても嬉しかった。

また、飼育担当ではない学生や、一般の方なども、芝生にやぎがいるのを見て笑顔になっていたり、やぎと触れ合ったりしていたのがとても印象的で、飼育担当の学生だけでなくそれ以外の学生に対してもいい影響を与えていたのではないかと思う。

2018 年度 後期 山羊飼育活動に参加後のアンケート調査

所属・学年 家政教育・1 年

Q1. 山羊飼育活動はあなたにとって有意義でしたか。

【○ 有意義だった・ 有意義ではなかった】

上記回答の理由について、有意義だった人はどこが有意義だったか、そうでなかった人は参加意図とのズレなど、有意義でなかった要因について自由に書いてください。

ヤギ飼育活動は有意義だったと思います。

大学生にもなるとなかなか動物と触れ合える機会はないので、新鮮でした。

いつの間にか毎日ヤギの様子を見に行くのが日課になり、2 匹のヤギは思っていたより大人しくて、タワシで撫でると気持ち良さそうにしたり、観察していて面白かったです。

Q2. 来年度以降も継続したほうがよいと思いますか。また、もし継続するとした場合に、友人や後輩など、周囲の人たちに活動参加を勧めますか。

継続について ⇒ 【 したほうが良い・ しないほうが良い・○ その他】

周囲の人に活動参加を勧めるか ⇒ 【○ 勧める・ 勧めない・ その他】

上記回答を選択した理由について、自由に書いてください。

継続についてはしなくても良いかなと思います。朝の活動時間が早いので、正直実家から通っている人からすると面倒を見るのが大変でした。そこを改善できれば来年以降続けても面白いのではないかと思います。

もし継続するならば、周りの人に勧めたいです。私が今回やってみて、面白かったのと、友達と楽しく 2 週間活動できたと思うからです。また、周りの人にヤギさんの話をすると皆興味を示してくれて、大学にヤギがいるのは珍しいことなので、ぜひ勧めたいです。

Q3. もっとこのようにであったらなど、今回の活動に対する改善要望やアイディアなどがありますか。

【○ ある・ ない・ その他】

上記回答であるを選択された人は、その内容をお書きください。

Q2 にも書きましたが、朝の活動時間が 8 時~となってしまうと、少し早すぎて来れない人もいると思うので、そこを改善して頂ければ良いかなと思いました。

⇒裏面に続く

今回の活動に参加した感想や意見を 400 字以内でお書きください。

（山羊であることの有用性についても、あればお書きください。今後の継続を考える材料にしたいと思います。）

今回ヤギ飼育活動に参加して、朝の活動にあまり行けなかったのですが、毎日ヤギの様子を見るのが面白かったです。大学にヤギがいることは珍しく、周りの友人などが興味を示してくれて、ヤギの事を話している時間は意外と盛り上がりました。友人も見たいと言ってきて、一緒に見に行ったりもしたので、楽しかったなと思います。ただ、水戸キャンパスには農学部キャンパスがあるわけでもないのに、飼育係を様々な学科・学年で行うとなると、連絡がしっかり取り合えなかったりして、飼育当番に抜けが出てしまったり、ブッキングしてしまったりということがありました。そういったところをもう少し間違いのないように分担できれば、もっと良かったかなと思います。また、私は朝の活動時間に間に合わなかったのも、そこが来年以降改善して頂けるならば来年以降もぜひヤギ飼育活動をやりたいなと思いました。

2018 年度 後期 山羊飼育活動に参加後のアンケート調査

所属・学年 人間環境教育コース・4 年

Q1. 山羊飼育活動はあなたにとって有意義でしたか。

【○ 有意義だった・ 有意義ではなかった】

上記回答の理由について、有意義だった人はどこが有意義だったか、そうでなかった人は参加意図とのズレなど、有意義でなかった要因について自由に書いてください。

山羊と触れ合ったのは小学生以来で、それ以来動物と触れ合うことはあまりなく、とても新鮮だった。卒業前によい体験ができたと思う。

Q2. 来年度以降も継続したほうがよいと思いますか。また、もし継続するとした場合に、友人や後輩など、周囲の人たちに活動参加を勧めますか。

継続について ⇒ 【○ したほうが良い・ しないほうが良い・ その他】

周囲の人に活動参加を勧めるか ⇒ 【○ 勧める・ 勧めない・ その他】

上記回答を選択した理由について、自由に書いてください。

私のようにあまり動物と関わりがない人は多いと思う。そういう人たちは大学という最後の学び場でこのような経験をすることによって、何かしら得るものがあると思う。その意味で、飼育活動の継続と周囲の人に活動への参加を勧める。

ただ、山羊の飼育環境（十分なエサ場の確保など）は第一に考えたほうがよいと思う。今回新鮮な草が少なかった感がある。

Q3. もっとこのようにであったらなど、今回の活動に対する改善要望やアイディアなどがありますか。

【 ある・ ない・○ その他】

上記回答であるを選択された人は、その内容をお書きください。

学生の責任感の希薄化が心配。

⇒裏面に続く

今回の活動に参加した感想や意見を 400 字以内でお書きください。

（山羊であることの有用性についても、あればお書きください。今後の継続を考える材料にしたいと思います。）

前出質問の回答に含む。

2018 年度 後期 山羊飼育活動に参加後のアンケート調査

所属・学年 人間環境教育コース・4 年

Q1. 山羊飼育活動はあなたにとって有意義でしたか。

【○ 有意義だった・ 有意義ではなかった】

上記回答の理由について、有意義だった人はどこが有意義だったか、そうでなかった人は参加意図とのズレなど、有意義でなかった要因について自由に書いてください。

動物園などではよく見かけるが、なかなか身近で接することがなかった山羊をリードで引っ張って移動させたり、ごはんをあげたりといったことが体験でき、嬉しかった。山羊にも食の好き嫌いがあり、自分の意思が強くあることに面白いと思った。

Q2. 来年度以降も継続したほうがよいと思いますか。また、もし継続するとした場合に、友人や後輩など、周囲の人たちに活動参加を勧めますか。

継続について ⇒ 【○ したほうが良い・ しないほうが良い・ その他】

周囲の人に活動参加を勧めるか ⇒ 【○ 勧める・ 勧めない・ その他】

上記回答を選択した理由について、自由に書いてください。

思っていた以上に面白かったのと、なかなか体験できないことから。

Q3. もっとこのようにであったらなど、今回の活動に対する改善要望やアイデアなどがありますか。

【 ある・ ない・○ その他】

上記回答であるを選択された人は、その内容をお書きください。

飼育活動に参加する学生同士の連絡がとりやすい環境を構築すべきだった。シフト表などは作成したほうがよかった。

⇒裏面に続く

今回の活動に参加した感想や意見を 400 字以内でお書きください。

（山羊であることの有用性についても、あればお書きください。今後の継続を考える材料にしたいと思います。）

前出質問の回答に含む。